

# 令和6年度 成田市学力調査 結果の概要について



成田市教育委員会

## 目 次

1. 調査の概要	P	1
(1) 成田市学力調査の目的		
(2) 令和6年度 成田市学力調査の実施について		
(3) 結果の公表について		
2. 成田市学力調査の結果	P	3
(1) 小学校1年生	P	3
(2) 小学校2年生	P	4
(3) 小学校3年生	P	5
(4) 小学校4年生	P	6
(5) 小学校5年生	P	7
(6) 小学校6年生	P	9
(7) 中学校1年生	P	11
(8) 中学校2年生	P	13
(9) 同一集団における、経年による比較（小学校）	P	15
(10) 同一集団における、経年による比較（中学校）	P	17
(11) 経年比較による上昇傾向・下降傾向の一覧	P	18
3. 成田市学力調査の結果を受けた学力向上への取り組み	P	19
(1) 全国学力・学習状況調査と成田市学力調査の活用基準		
(2) 全国学力・学習状況調査よりも成田市学力調査を中心に活用する理由について		
(3) 成田市学力調査を活用した、学力向上への取り組みのサイクル（参考例）		
4. 学力向上を目指して ～本市の教育振興基本計画を知る～	P	20
(1) 成田市学校教育振興基本計画「輝くみらいNARITA教育プラン」		
(2) 第3期千葉県教育振興基本計画と成田市教育振興基本計画との関わり		
(3) 「成田市教育施策基本目標1-2」と「教育指導課・学力向上への取り組み」との関わり		
5. 学力向上に向けた市内共通実践課題	P	23
(1) 成田市教育委員会 教育指導課「学校教育の方針と重点」の周知		
(2) GIGAスクール構想に伴うタブレット端末の有効活用		
(3) 小中連携の視点より、中学校区ごと等に共通実践課題の設定と学習規律の徹底		
(4) 学力向上における共通実践の設定		
(5) 相互実践研修等、指導力向上に向けた研修の実施		
(6) 授業改善の実践項目（ダブルアップシートの活用）		
(7) 指導と評価の一体化		
(8) 優れた指導実践等の共有化		
(9) 家庭での学習習慣の確立		
(10) 学校図書館の計画的な運用と、読書活動の推進		
(11) マイアセスシステムを活用したフォロー		

# 1 調査の概要

## (1) 成田市学力調査の目的

<学校及び児童・生徒>

- ・学校が児童・生徒の学習内容の定着状況を把握・分析・検証し、次年度以降の教育活動に学校全体で活用する。
- ・教師が1年間の学習指導を振り返り、次年度に向けて改善・向上を図る。
- ・児童生徒が学習内容の定着状況を振り返り、学力及び学習習慣の改善・向上を図る。

<成田市教育委員会>

- ・市全体及び各小中学校の学習状況を把握・分析し、学力の向上、指導の改善を促す。

## (2) 令和6年度 成田市学力調査の実施について

①実施時期 令和6年12月4日(水)または、5日(木)の2日間

※この2日間で実施できない場合は、12月2日(月)～12月12日(木)の期間で実施してもよい。

②実施対象及び実施教科等

学校種	学年	人数	実施教科等
小学校 義務教育学校 前期課程	1年生	992人	・国語、算数：小1～小6 ・理科：小3～小6 ・社会：小5～小6 ※理科：小3から出題 ※社会：小5から出題（小3・4では「わたしたちの成田市」を学習しているため、日本の地理や産業を学習する小5から調査対象とする。）
	2年生	965人	
	3年生	1,050人	
	4年生	1,072人	
	5年生	1,114人	
	6年生	1,162人	
中学校 義務教育学校 後期課程	1年生 (7年生)	1,194人	・国語、社会、数学、理科、英語：中1～中2 (7年生～8年生) ※中3は受験対策のため調査対象から外す。
	2年生 (8年生)	1,172人	

### ③出題内容

①実施時間	・ 小学校 40分、中学校 45分
②問題作成の基本方針	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 学習指導要領に基づき、すべての小問について「出題のねらい」「該当する学習指導要領の項目」を踏まえて作成</li> <li>・ PISA 型論述式問題、環境を意識させる問題など、最新の動向を取り入れて作成</li> <li>・ 児童生徒にとって最適な図や文字の大きさ、レイアウトで作成</li> </ul>
③出題範囲	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 該当学年の 11 月末までの学習内容（新作の問題）</li> <li>※中学校理科も成田市採用である大日本図書の標準的な指導計画の内、11 月分までの内容で回答（全中学校統一）</li> </ul>
④基礎・活用の割合	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 基礎問題(主として知識に関する問題)を全体の 70~80%、活用に関する問題は全体の約 20~30%出題</li> <li>・ 活用問題は、「思考力・判断力」「表現力」を問う問題で構成</li> </ul>
⑤活用問題の詳細について	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語…活字問題と図版・資料を関連付けて評価する力を問う。</li> <li>・ 社会…複数の資料を合わせて読み取る力を問う。</li> <li>・ 算数、数学…日常生活の場面で、グラフなどを読み取って問題解決する力を問う。</li> <li>・ 理科…知識として理解したことを、日常生活の場面で問題解決する力を問う。</li> <li>・ 英語…リスニングの場面で、活字情報（日本語）と関連付けて問題解決する力を問う。</li> </ul>
⑥その他の問題	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 国語と英語は、聞き取り問題を出題</li> <li>・ 国語英語は条件作文を出題</li> </ul>
⑦解答方式	<ul style="list-style-type: none"> <li>・ 選択肢番号や数字、文字などの解答を解答用紙に記入する方式。</li> <li>・ 記述、論述形式の問題を全体の 20%程度出題</li> <li>・ 小学校 1 年生：問題用紙に直接書き込む形式</li> <li>・ 小学校 2 年生～中学校 2 年生：別紙の解答用紙に書き込む形式</li> <li>※中学校の選択問題の解答はマークシート方式</li> </ul>

### (3) 結果の公表について

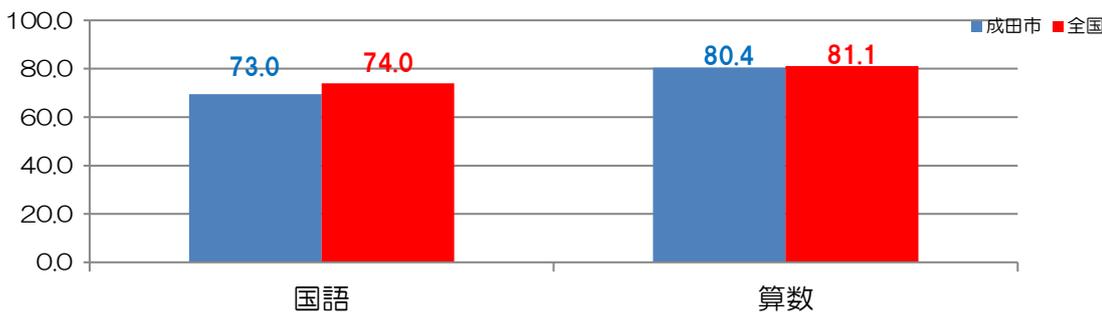
本調査の趣旨は、「児童生徒の学力を把握し、子どもの学習習慣及び教師の学習指導の改善・向上を図る」ものである。については、以下の 2 点に留意する。

<p>①結果を公表する際は、学校または学年ごとに分析した成果と課題、今後の対策、児童生徒及び家庭へのアドバイスなどを明示すること。たとえば、特に正答率が高いまたは低い問題については、その出題内容を引用し、具体的な分析結果等を記載するなど、児童生徒及び保護者へ啓発を図ることができるよう配慮すること。</p> <p>②学校間の序列化や過度の競争を避けるため、単なる数値結果のみの公表は行わないこと。</p>
--

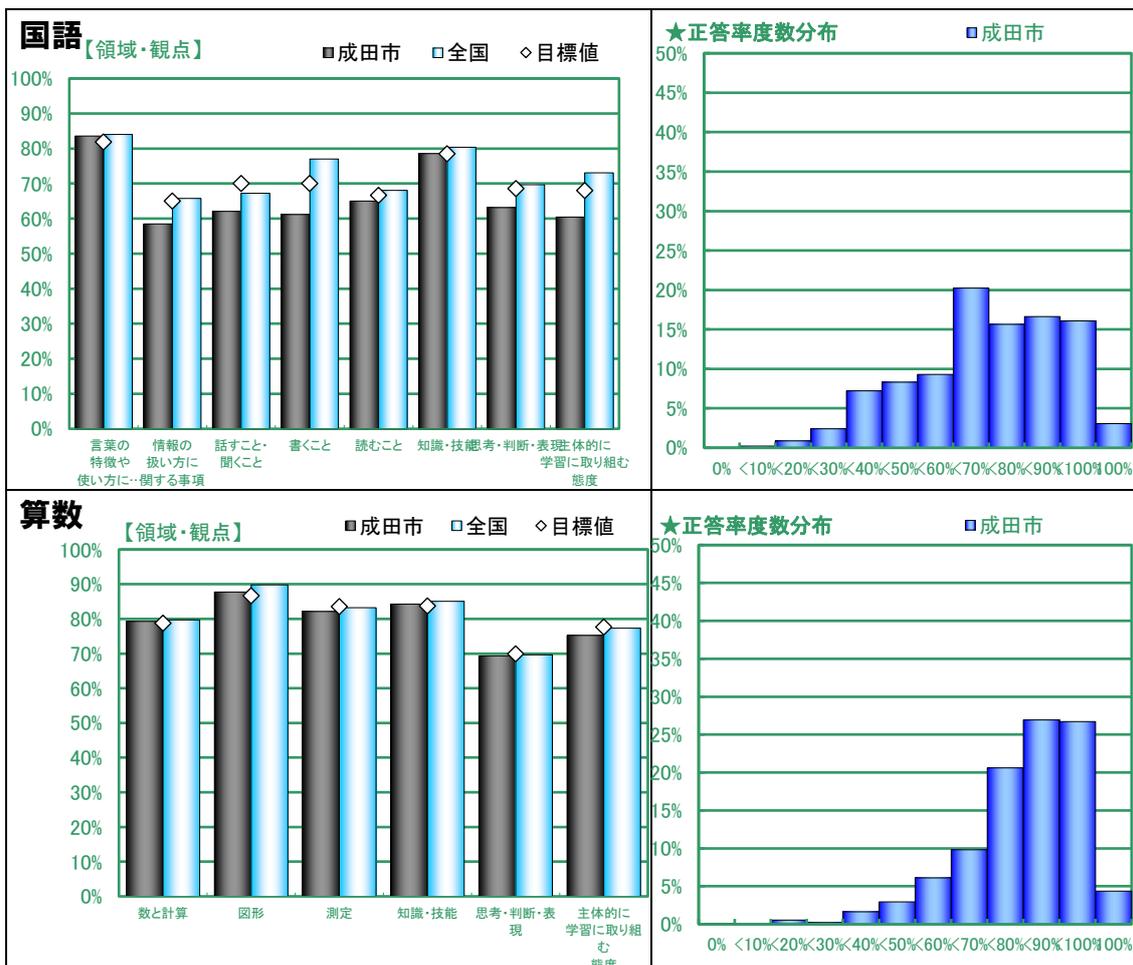
## 2 成田市学力調査の結果

### (1) 小学校1年生

#### ①各教科の平均正答率



#### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較 (市・全国・目標値) 右: 正答率度数分布)



#### 【国語科】

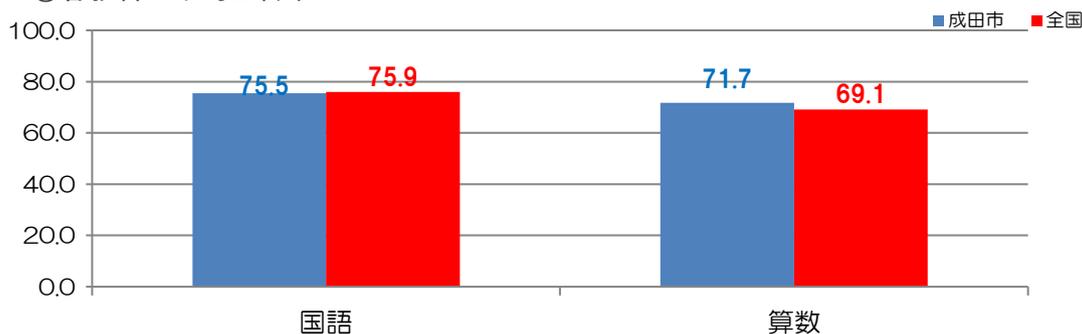
- 「書くこと」の設問では、経験したことについて、そのときに思ったことを書くことに課題が見られた。普段の授業や生活の中で、自分が思ったことを書く習慣をつけるだけでなく、感情や動作を表す言葉のリストを作るなど、語彙を増やすための取組みも大切にしたい。
- 「話すこと・聞くこと」の設問では、話し手の発言内容を聞くことはできても、質問を書くことができなかったため、発表を聞いて、感想だけでなく「聞きたいことを質問する」活動を授業の中で、全員が経験できるようにしたい。

#### 【算数科】

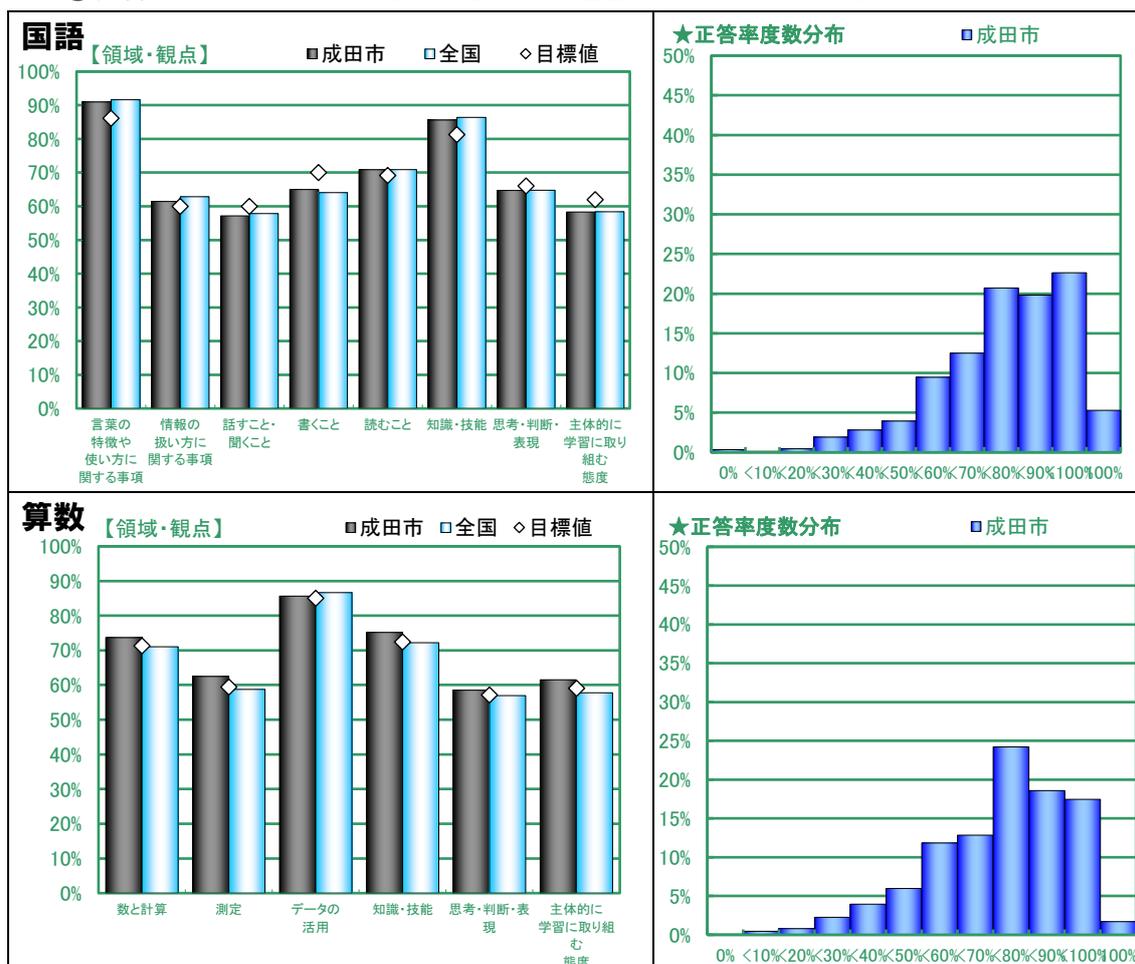
- 「数と計算」の領域で課題が見られた。数の意味や表し方について理解するために、具体物や数直線を用いた活動や視覚的な数の増加がわかる活動を大切にしたい。
- 示された式と絵から状況を把握し、適切な文章を作成する力を養うため、具体物を使った演習に加え、ペアワークでの意見交換を取り入れた授業の工夫が必要である。

## (2) 小学校2年生

### ①各教科の平均正答率



### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較 (市・全国・目標値) 右: 正答率度数分布)



#### 【国語科】

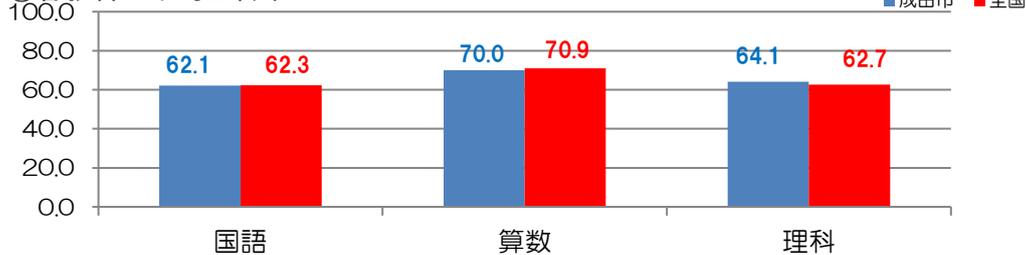
- 概ね全国平均と同程度の結果であった。
- 「話すこと・聞くこと」の設問では、ゲームの説明をしている話し手がどのような工夫をしているかの問題で、話す事柄の順序などの話し手の工夫を捉えることに課題が見られた。普段の授業の中で、どのような視点で聞かせるか目的をもって聞く活動が大切である。

#### 【算数科】

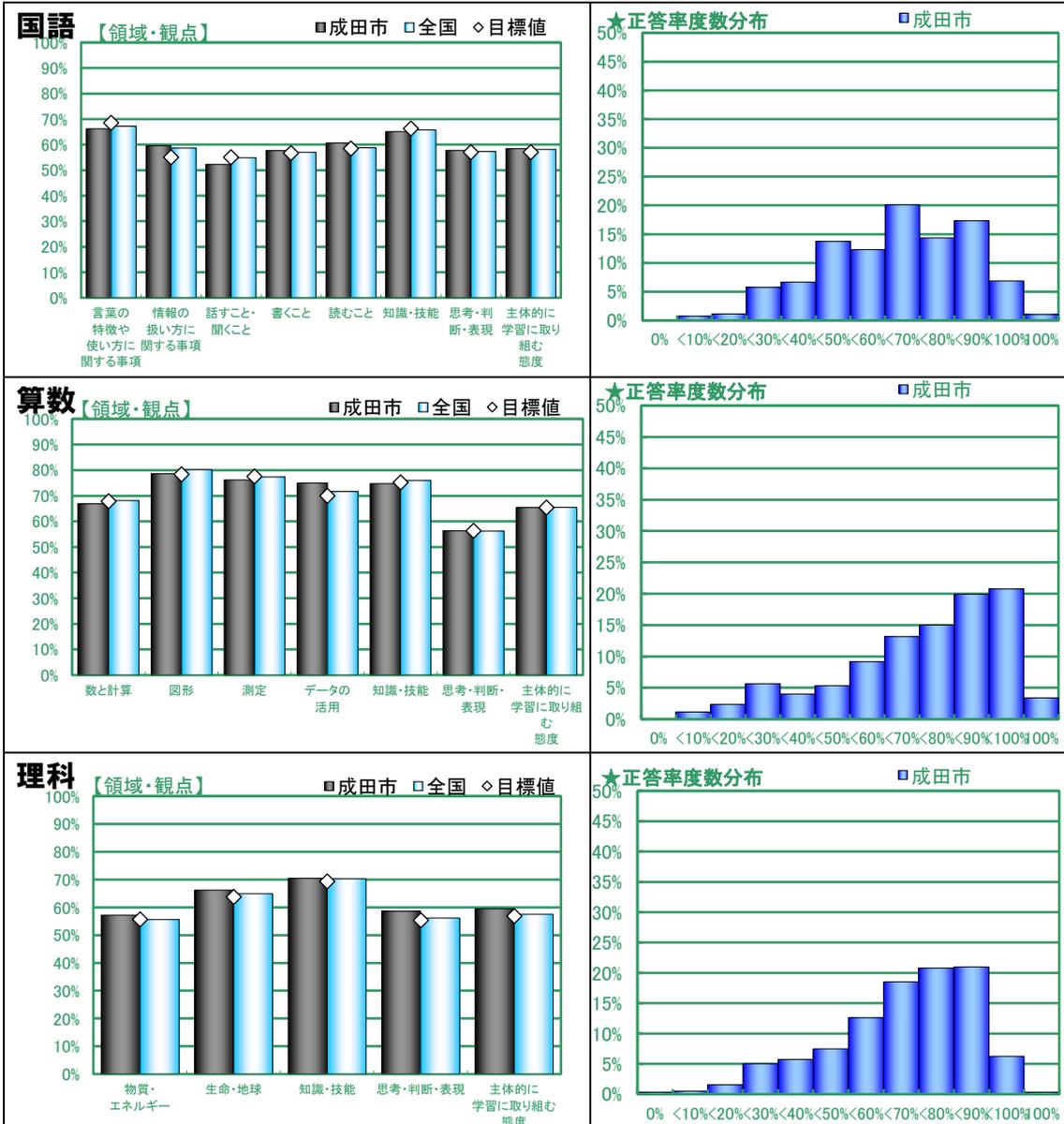
- 概ね全国平均と同程度の結果であった。
- 特に「測定」の領域における単位が異なる3つのかさの大きさを比較する問題で課題が見られた。文章内の情報の流れや構成を理解し、重要なポイントを見つけ出す力を養うことが大切である。
- 4位数までの十進位取り記数法による数の表し方や数の大小・順序を理解し、数直線に示された数を正確に読み取る力を向上させる授業の工夫が必要である。

### (3) 小学校3年生

#### ①各教科の平均正答率



#### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較 (市・全国・目標値) 右: 正答率度数分布)



#### 【国語科】

- 概ね全国平均と同程度の結果であった。
- 「書くこと」では自分の考えとそれを支える理由や事例を明確にして文章を書く設問で良好な結果が得られた。
- 2年生で学習した漢字の書き取りや、様子や行動を表す語句について語彙を増やすなどの「知識・技能」で課題が見られた。

#### 【算数科】

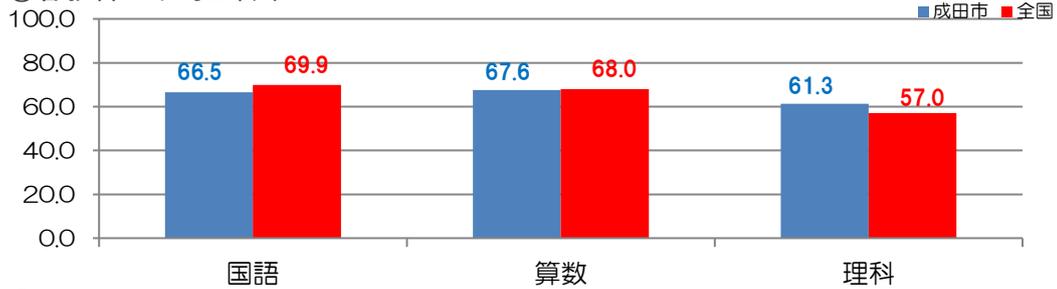
- 除法が日常生活のどのような場面で用いられるかを実感させ、余りという概念の理解が重要である。コインなどの具体物を使った学習を大切にしたい。
- 「思考・判断・表現」に課題が見られた。他者に自分の考えを説明し、自らの考えを明確に表現する力を育成するために、ICTを活用するなど授業の工夫が必要である。

#### 【理科】

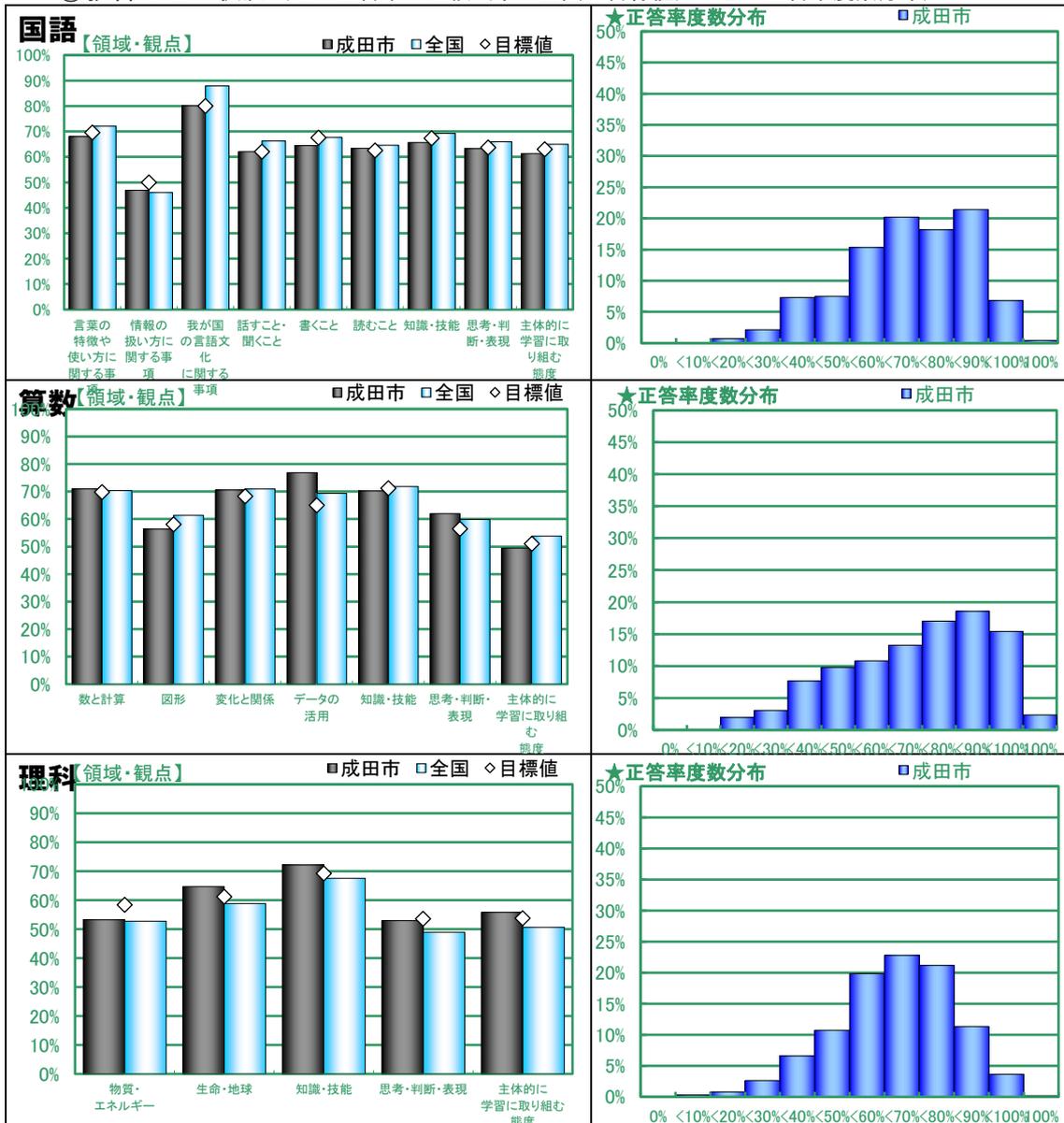
- 全国平均を上回っており、良好な結果が得られた。
- 「太陽と地面のようす」では基礎問題の正答率が高いが、活用問題において課題が見られた。既習内容を踏まえて、発展的な学習課題に取り組むことも必要である。

#### (4) 小学校4年生

##### ①各教科の平均正答率



##### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較(市・全国・目標値) 右: 正答率度数分布)



##### 【国語科】

- 3年生で学習した漢字の書き取りや、主語と述語の関係などの「知識・技能」定着を丁寧にはかる必要がある。
- 「話すこと・聞くこと」の設問では、調べてわかったことを発表する場面で、相手に伝わるように、事例を挙げながら話す問題に課題が見られた。

##### 【算数科】

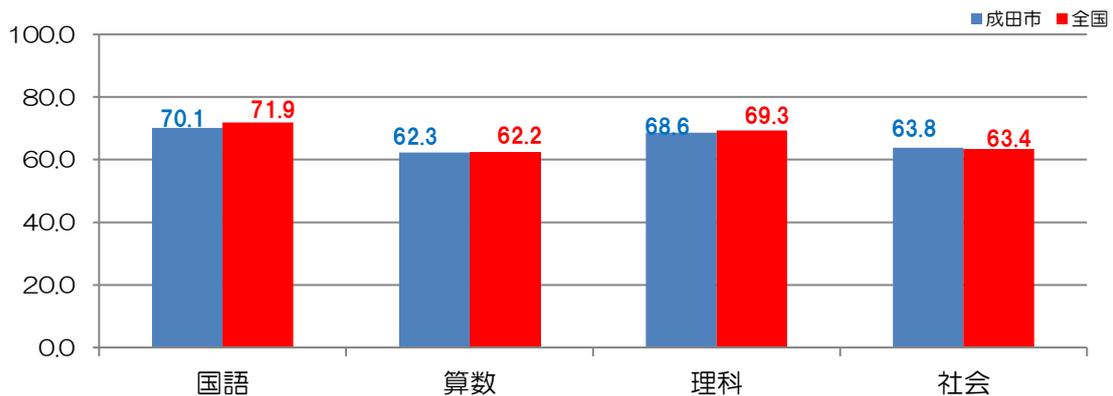
- 若干、全国平均を上回る結果となった。
- 「図形」の領域で課題が見られた。特に、平行四辺形の性質を捉え、図形の作図や図形の特徴に関する理解を深めることが重要である。図形を構成する要素に基づいて、図形の分類や比較を行う機会を増やしたい。

##### 【理科】

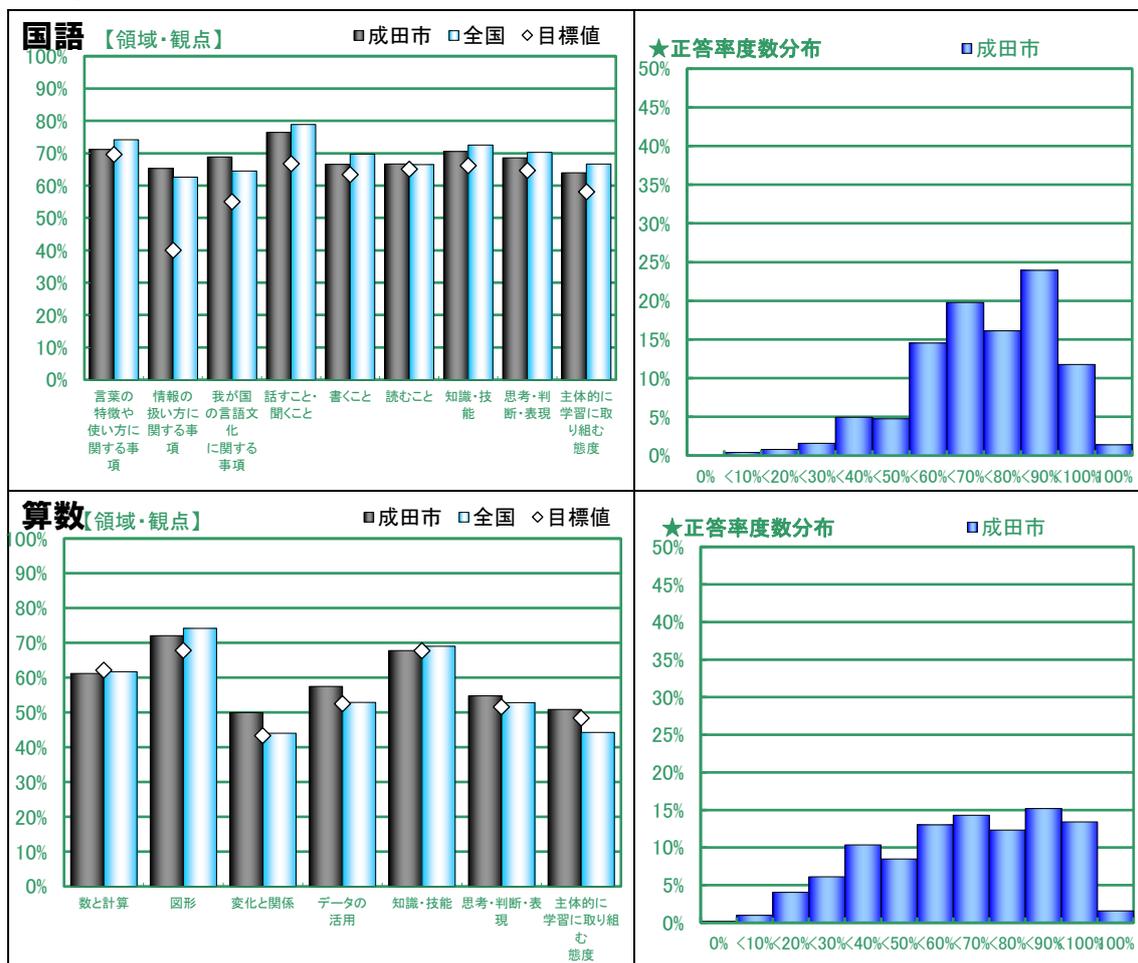
- 全国平均を上回っており、良好な結果が得られた。
- 特に「天気のようにすと気温」の「月と星」の単元で良好な結果が得られた。

## (5) 小学校5年生

### ①各教科の平均正答率



### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較 (市・全国・目標値) 右: 正答率度数分布)

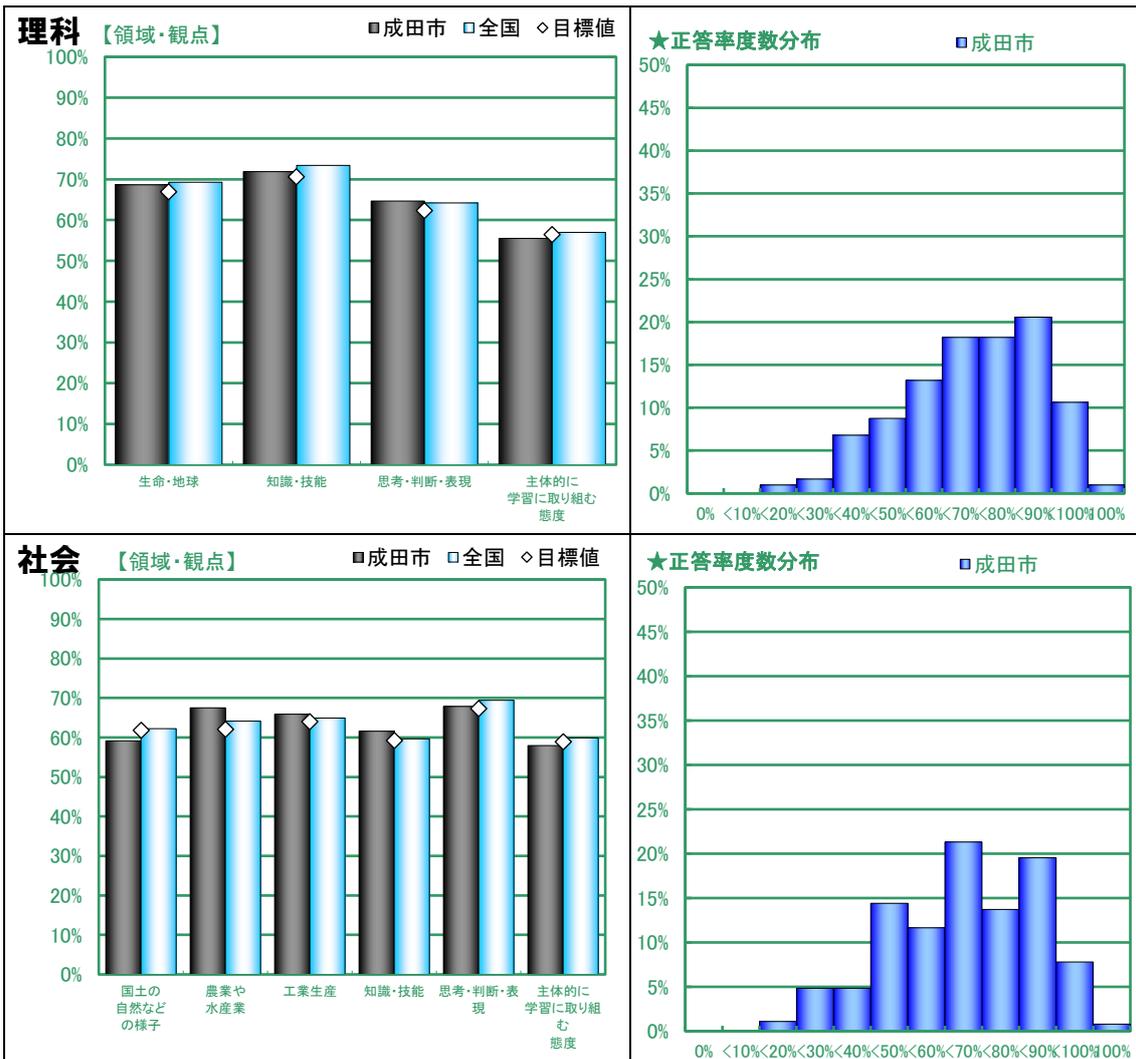


#### 【国語科】

- 概ね全国平均と同程度の結果であった。
- 4年生で学習した漢字の書き取りや「書くこと」では、段落の役割について理解し、2段落構成で文章を書くことに課題が見られた。基礎的な内容の定着をしっかりと図りたい。

#### 【算数科】

- 概ね全国平均と同程度の結果であった。
- 小数を分数の形に直すときに、数の形が異なっても同じ数量を示していることを理解させるため、実生活と関連付けた授業の工夫が必要である。
- 図形の領域では、「基本的な図形の性質」の知識・理解に課題が見られた。既習事項を生かした実践的な学習を繰り返し行うことを大切にしたい。



**【理科】**

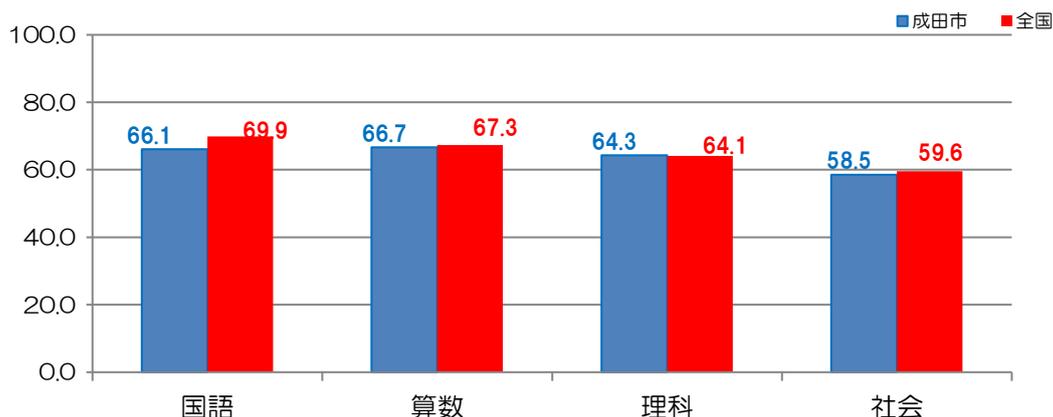
- 全国平均を下回る観点が多く、課題が見られた。
- 目的を明確にした観察・実験を通して、理解したことの定着を図るための授業の工夫が必要である。

**【社会科】**

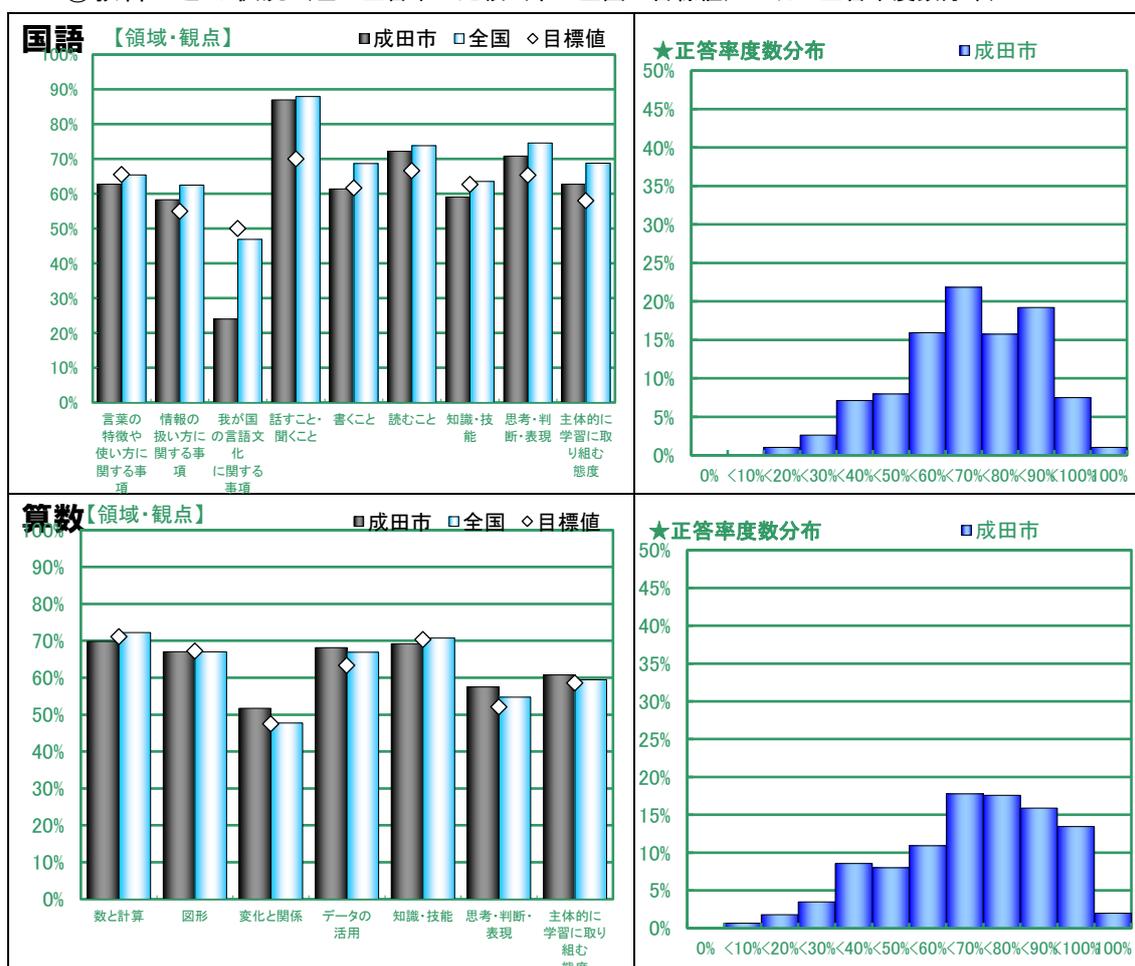
- 概ね全国平均と同程度の結果であった。
- 特に「思考・判断・表現」に課題が見られた。
- 日本の国土の位置や日本の周りの国々の位置関係、日本の国土の特色について課題が見られた。国土の気候の特色は季節によってどのような変化があるのかに着目させ、気温と降水量のグラフを見比べながら日本の気候の特色についてまとめる活動を取り入れたい。

## (6) 小学校6年生

### ①各教科の平均正答率



### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較 (市・全国・目標値) 右: 正答率度数分布)



#### 【国語科】

○全国平均を下回っており、課題が見られた。

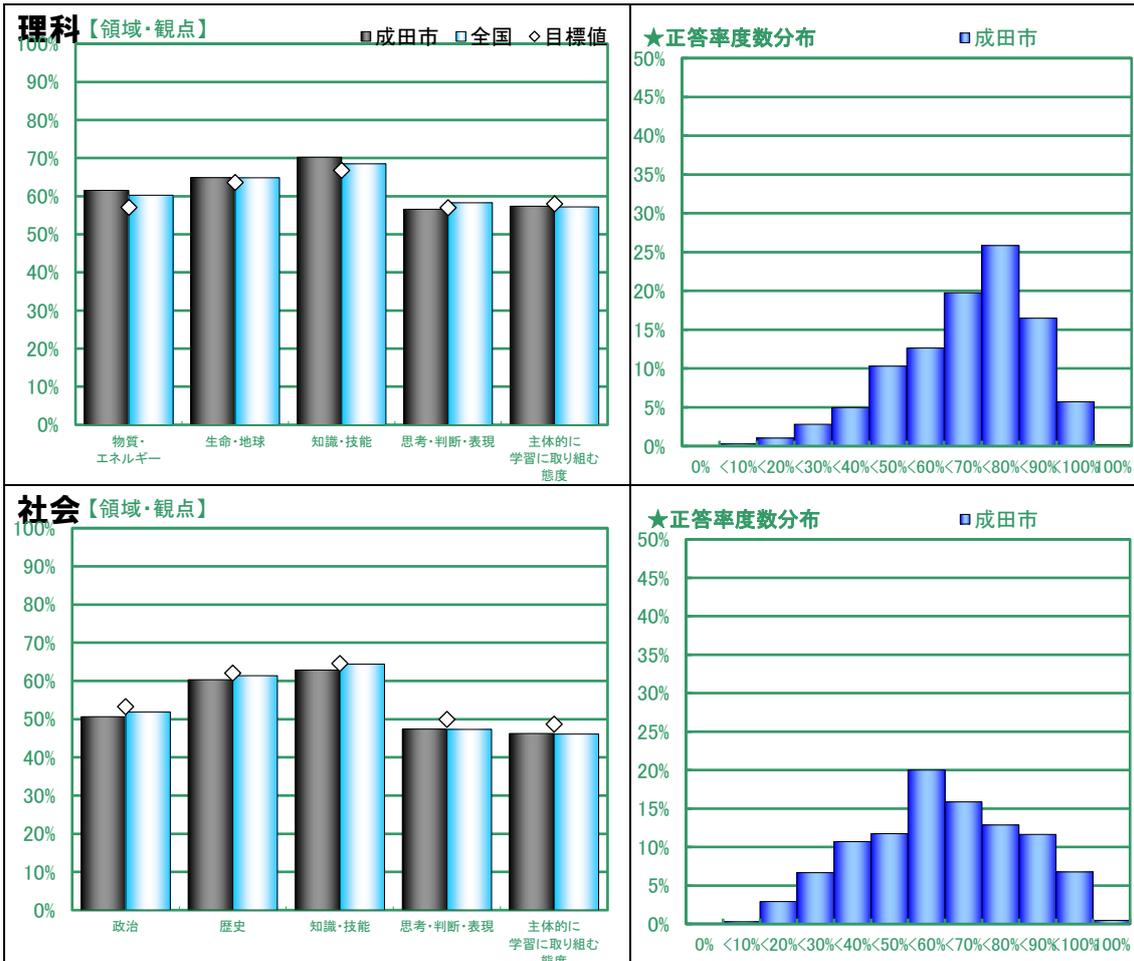
○「我が国の言語文化に関する事項」を高めるために、語源を調べたり、和語、漢語、外来語などの区別について関心をもてるような授業の工夫をしたりする必要がある。

#### 【算数科】

○若干、全国平均を下回っており、課題が見られた。

○分数のかけ算・わり算では、数直線や面積図を活用し、その意味や関係性を明確にできるような授業の工夫が必要である。

○「変化と関係」の領域では、比を使って一方の量から他方の量を求めることができるように、比の意味や表し方を理解させる学習を大切にしたい。



【理科】

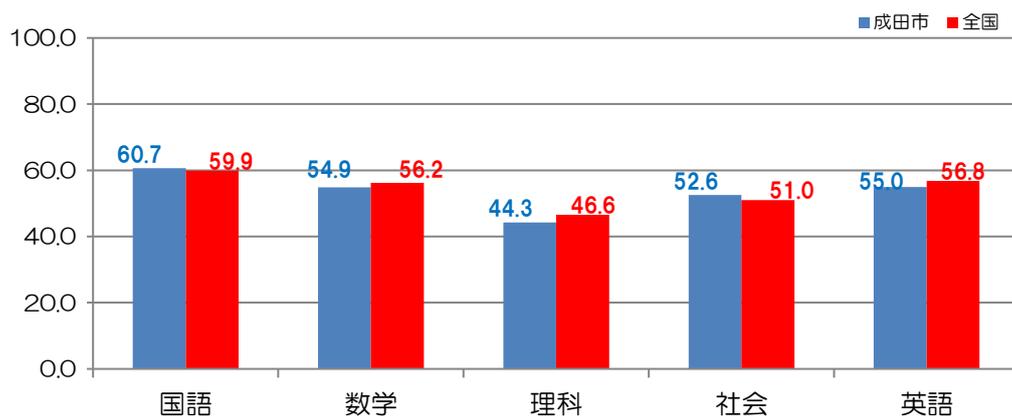
- 全国平均と同程度の結果であった。
- 個別に分析すると、知識を応用して考える領域に課題が見られた。知識の定着を図ったのちに、発展的な学習課題などを提示し、深く考える時間をとることが必要である。

【社会科】

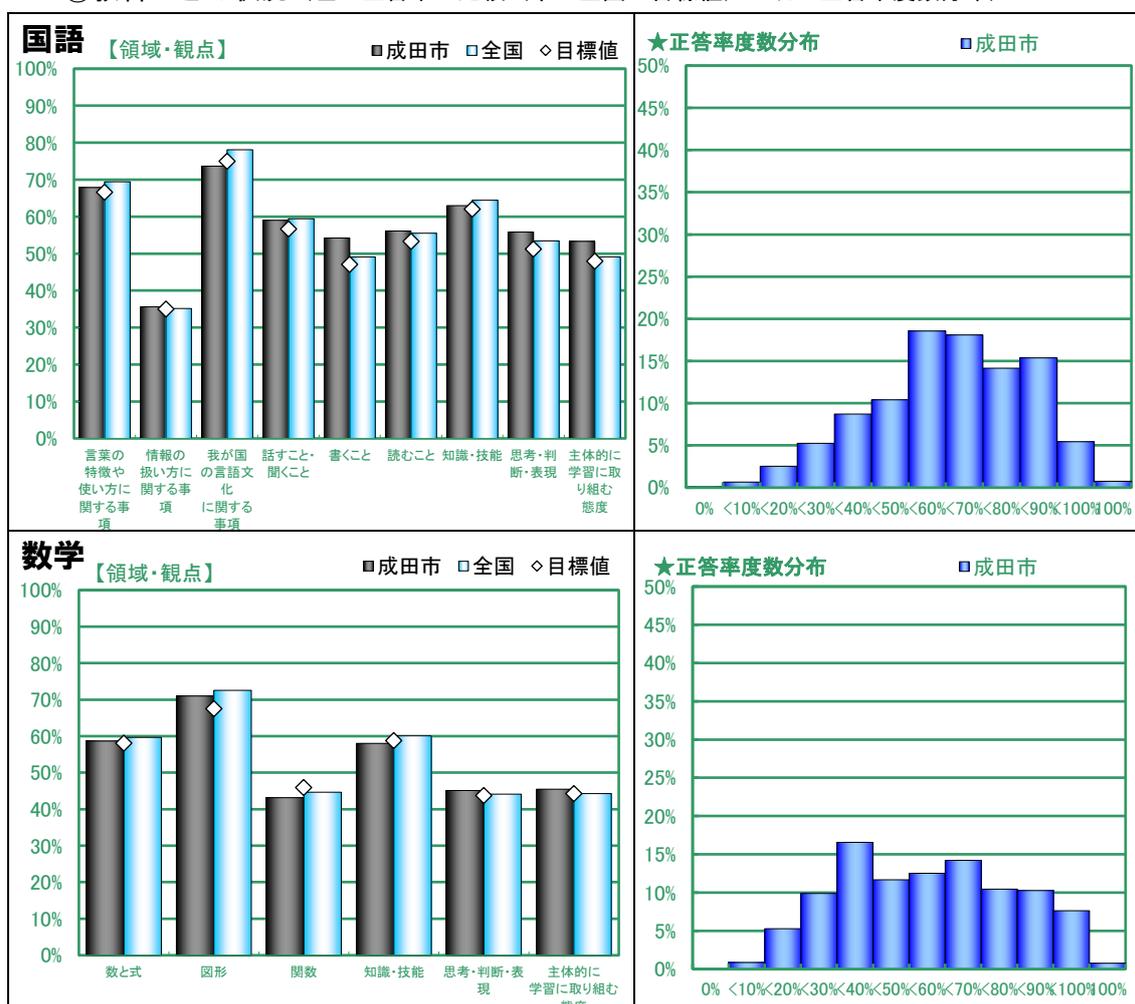
- 概ね全国平均と同程度の結果であった。
- 政治の学習は、基本的な政治の仕組み、国会や内閣の働きについて理解させたい。
- 歴史の学習は、歴史的人物が行った政策や、どんな国づくりを目指したかなど、その背景について理解させることが必要である。また、各時代の政治、生活、文化の違いについても資料から読みとる活動を入れた学習を大切にしたい。

## (7) 中学校1年生

### ①各教科の平均正答率



### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較 (市・全国・目標値) 右: 正答率度数分布)

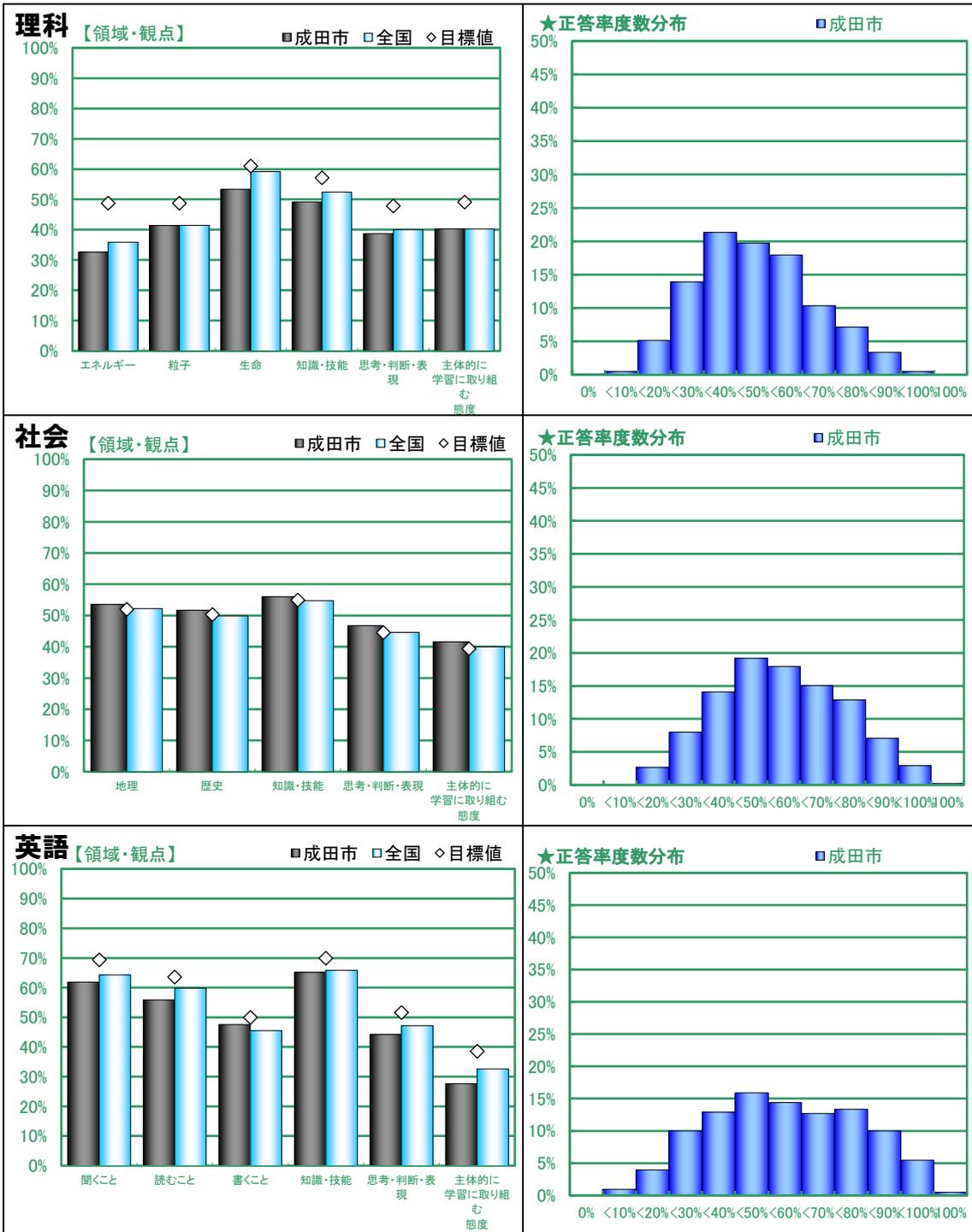


#### 【国語科】

- 概ね全国平均と同程度の結果であった。特に「書くこと」の設問で、自分の考えを明確にして書く問題で良好な結果が得られた。
- 漢字の部首やことわざなどの「言葉の学習」の設問では、正答以外の誤答にも反応率が均一に分散しており、理解が二極化しているため、正しく理解できるような学習活動や日常の中で興味をもたせる指導が必要である。

#### 【数学科】

- 全国平均を下回っており、「関数」の領域に課題が見られた。
- 平面上での座標の動きを実践的に体験できる教材やデジタルツールを用いて、座標の理解を深め、実生活と関連付けていく必要がある。
- 基礎となる素因数分解の理解が不十分のため、確実な定着を図りたい。



【理科】

○全体的に全国平均を下回る領域・観点が多い。特に基礎となる知識の習得に課題が見られる。既習の知識をしっかりと整理し、関連する事象や、類似・対比できるものと紐づけながら学習することが必要である。

【社会科】

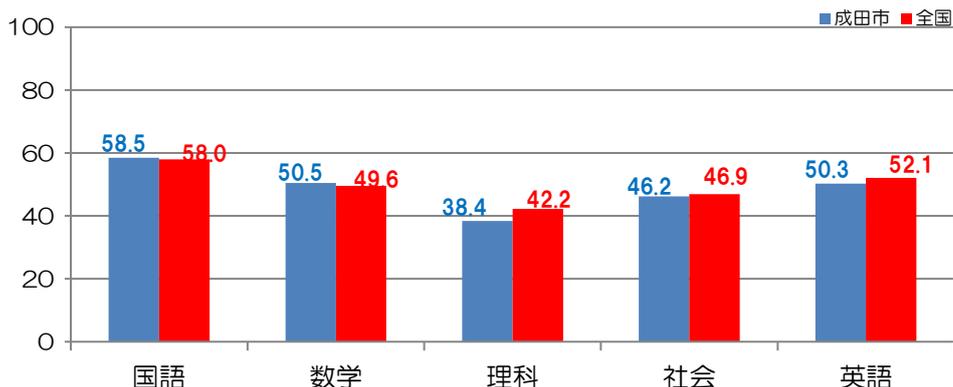
○全体的に全国平均を上回っている領域・観点が多い。  
 ○地理的分野については、竹島や北方領土、尖閣諸島についての基本的な知識を身につけ、領土問題についても地理的な特色をまとめさせたい。  
 ○歴史分野については、日本と東アジアの繋がりやその影響について理解することが必要である。

【英語科】

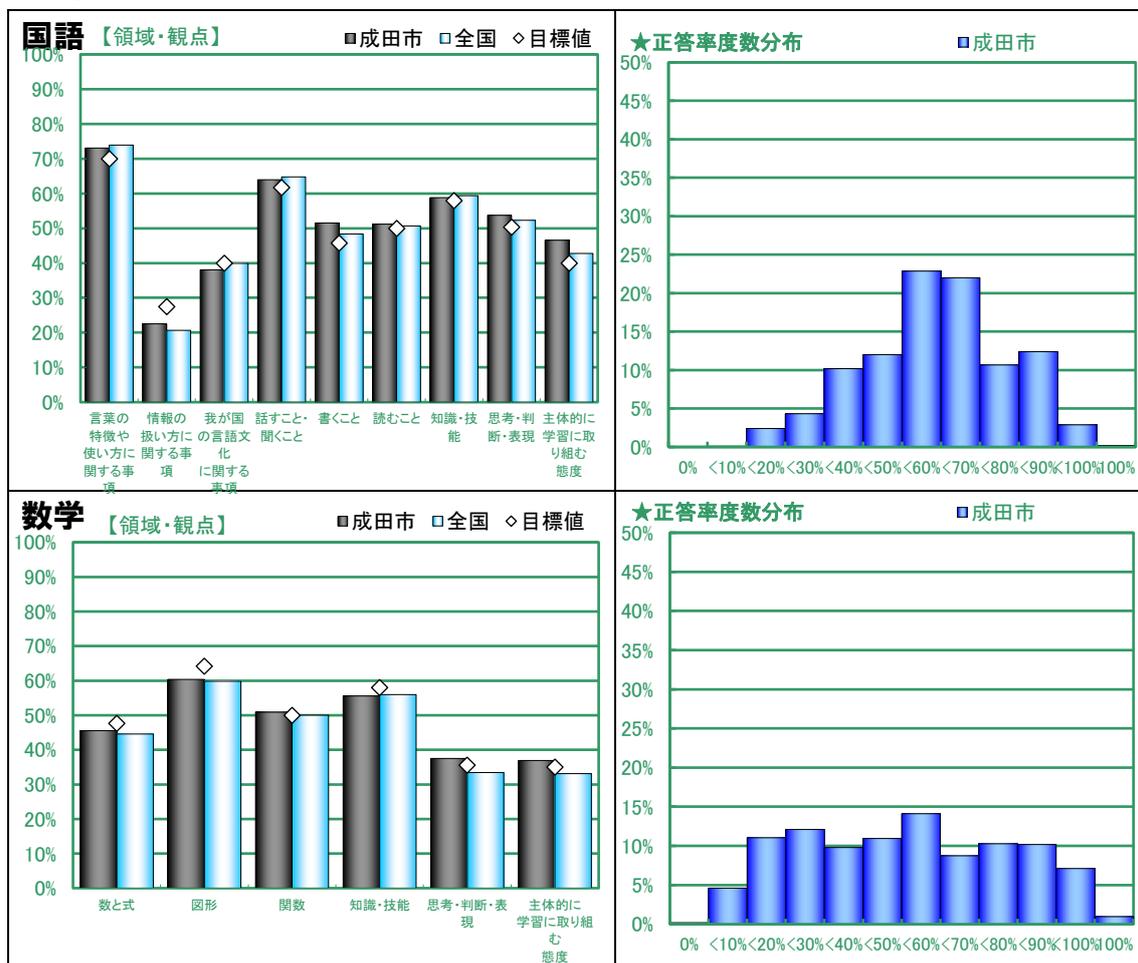
○全体的に全国平均を下回る領域・観点が多く課題が見られる。  
 ○小学校で十分慣れ親しんだ語彙や表現に関する問題、単語の並べ替えによる英作文の問題の正答率は良好であるが、思考力・判断力・表現力を求められる問題の正答率に課題が見られた。  
 ○「話す」活動では間違いを修正する中間指導をすること、「読む」活動では内容理解や重要語句に気づかせるための発問をすることを大事にしたい。

## (8) 中学校2年生

### ①各教科の平均正答率



### ②教科ごとの状況 (左: 正答率の比較 (市・全国・目標値) 右: 正答率度数分布)

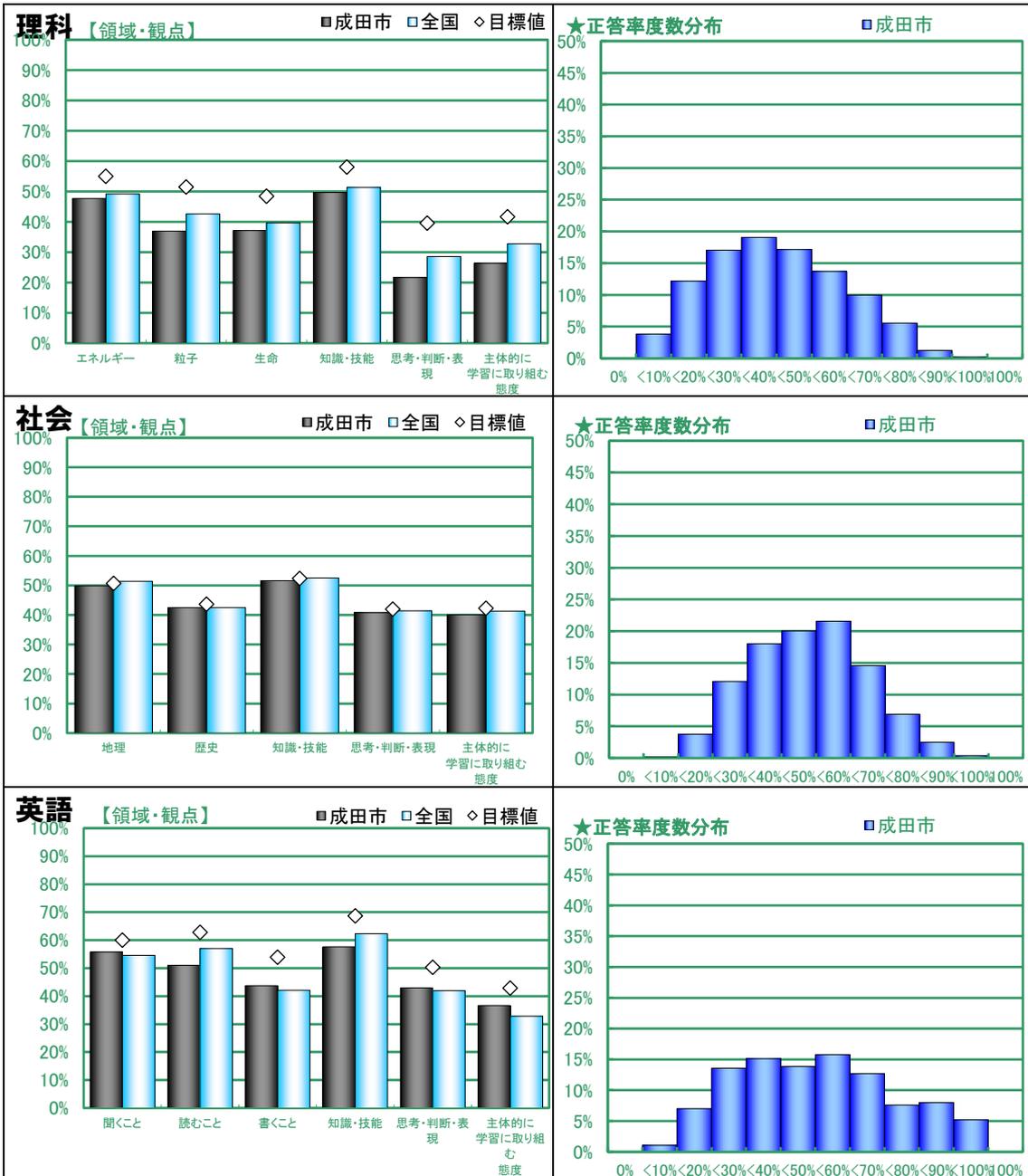


#### 【国語科】

- 概ね全国平均と同程度の結果であった。
- 情報と情報との関係について理解し、目的に応じて複数の情報を整理しながら内容を読み取る設問で課題が見られた。

#### 【数学科】

- 概ね全国平均と同程度の結果であった。
- 連立方程式に課題が見られる。数量を表や線分図などで表し、関係を明らかにすることで、与えられた文章に対して適切な方程式を立式することが大切である。
- 論理的な思考力を高めるために、生徒同士の話し合いや意見交換をする場を取り入れた対話型授業の実践が必要である。



**【理科】**

- 全体的に全国平均を下回る領域・観点が多く課題が見られた。特に、推測する力や表現する力に課題が見られた。実験・観察と関連付けて、主体的に学習できる授業が大切である。また、実験や観察における「手順」だけではなく、「理由」について科学的な理解を深めたい。

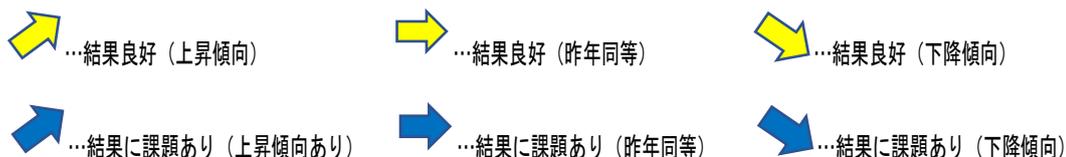
**【社会科】**

- 全体的に全国平均を下回る領域・観点が多く課題が見られた。特に、記述式の問題に課題が見られる。  
複数の資料を読み取り、考察したり、書き表したりする活動をとおして、学んだ知識を関連付けながら表現できる場を授業の中で設けたい。
- 地理的分野について各地方の地形や人口分布、気候、産業を関連させて特徴を理解させたい。
- 歴史的分野については、歴史的人物、出来事、その影響について資料を活用しながら自分の力でまとめる機会を増やすことが大切である。

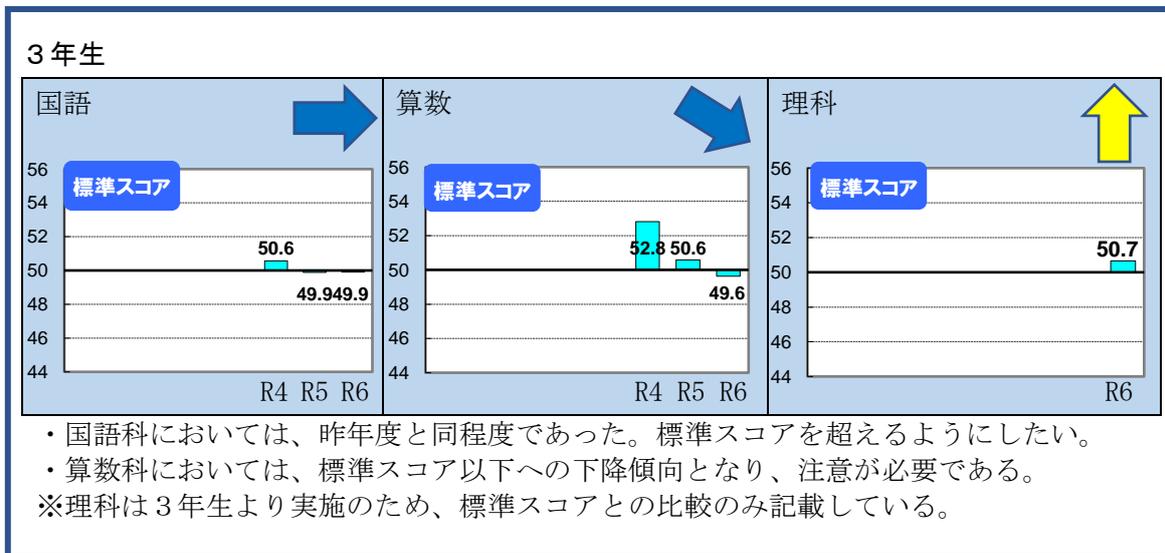
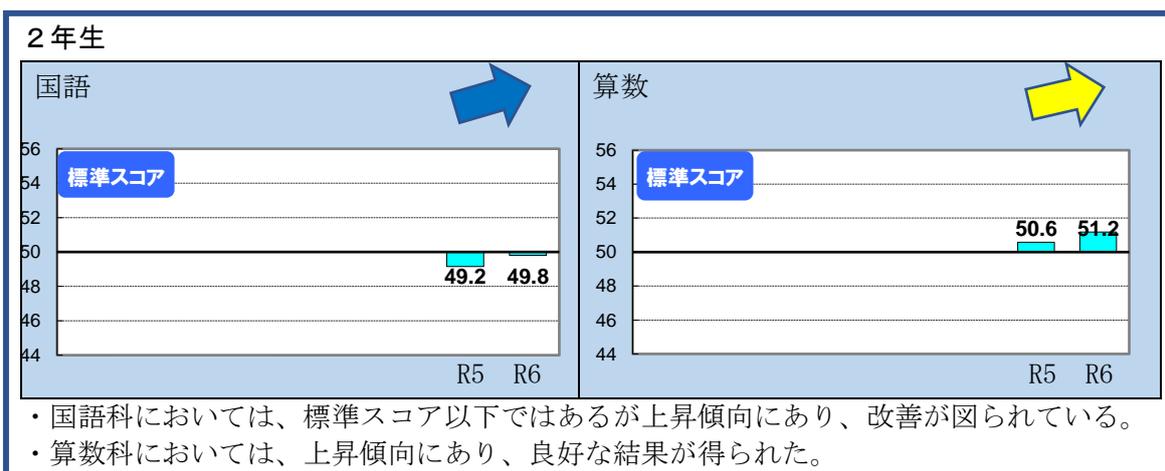
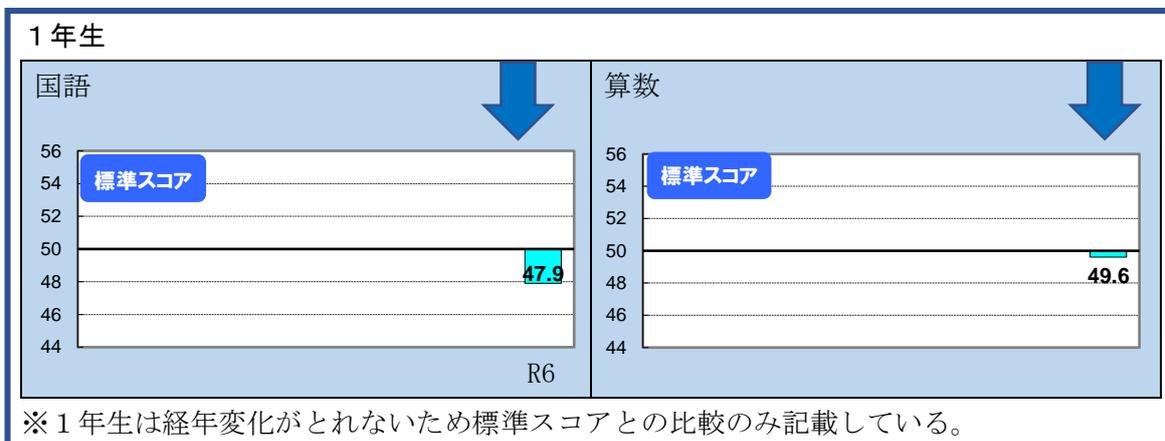
**【英語科】**

- 全体的に全国平均を下回る領域・観点が多く課題が見られた。
- 小学校で慣れ親しんだ語彙や表現は身につけており、自分の意見とその理由を書くことができる生徒の割合も高い。
- 「読むこと」の領域で、概要を理解し要点をつかむ問題に課題が見られた。読む目的を明確にして教科書本文を読ませたり、本文の概要をつかませるための発問を工夫したりすることが大切である。

(9) 同一集団における、経年による比較 (小学校)

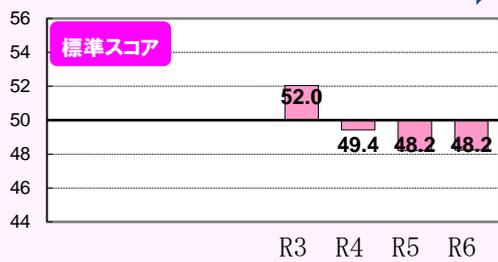


※各教科の値は、全国平均を 50 とした場合の標準スコアを表す。

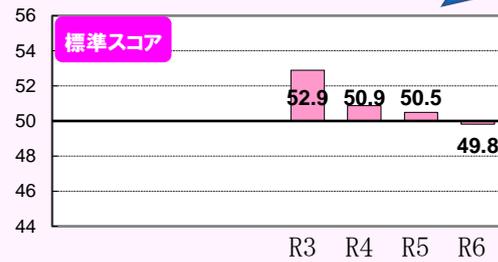


## 4年生

国語



算数



理科



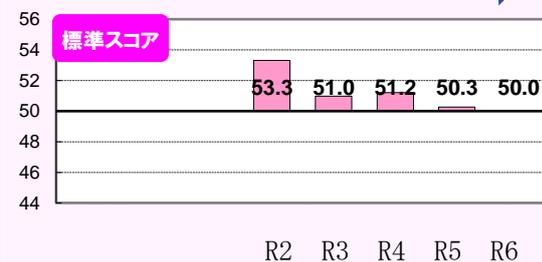
- ・国語科においては、昨年度と同程度であった。標準スコアに近づくようにしたい。
- ・理科においては、大きく上昇し、良好な結果が得られた。
- ・算数科においては、下降傾向にあり、注意が必要である。

## 5年生

国語



算数



理科



社会



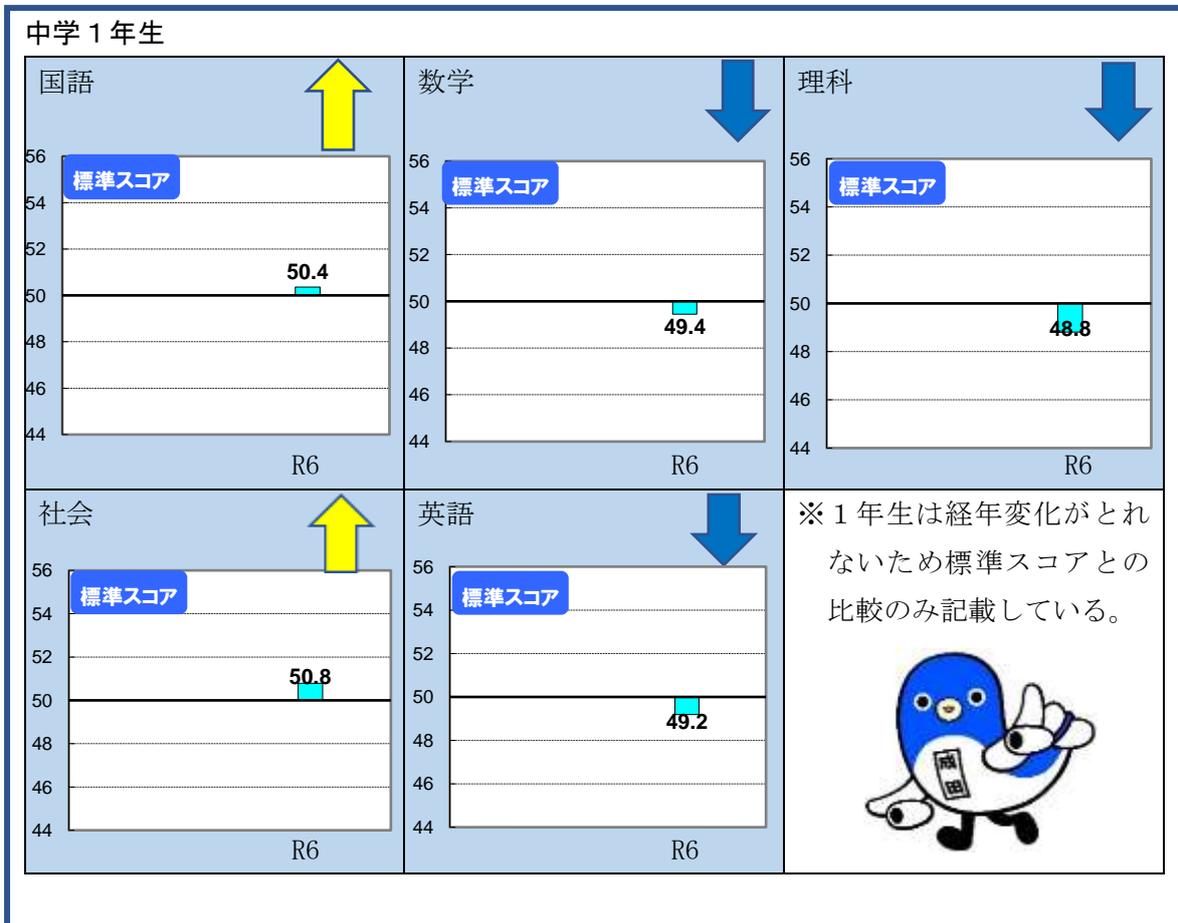
- ・算数科は昨年度と同程度であり、標準スコアと同等であるが、令和2年度より下降傾向にあるので、注意が必要である。
  - ・国語科、理科共に下降傾向にあり、今後も注意が必要である。
- ※社会科は、5年生より実施のため、標準スコアとの比較のみ記載している。

6年生

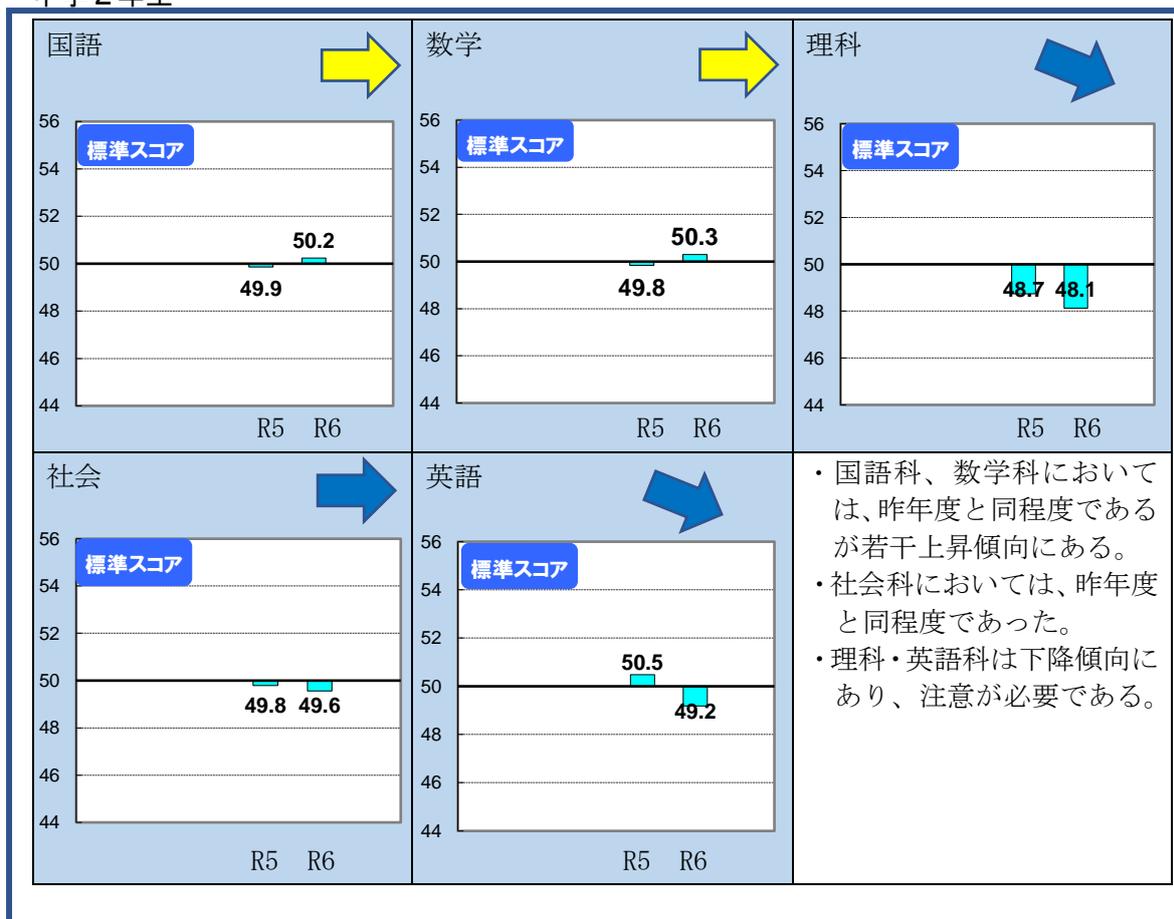


- ・国語科においては大きく下降しており、注意が必要である。
- ・算数科においては、下降しているだけでなく、上昇・下降を繰り返しているため、確実な定着を図りたい。
- ・理科においては、上昇傾向にあるが、標準スコアと同程度であるためさらに向上させたい。
- ・社会科においては、昨年度と比較すると同程度であったが若干下降傾向にあるため、注意が必要である。

(6) 同一集団における、経年による比較 (中学生)



中学2年生



・国語科、数学科においては、昨年度と同程度であるが若干上昇傾向にある。  
 ・社会科においては、昨年度と同程度であった。  
 ・理科・英語科は下降傾向にあり、注意が必要である。

(7) 経年比較による上昇傾向・下降傾向の一覧 ※小1と中1は経年比較ができないため省略

	国語	算数/数学	理科	社会	英語
小学1→2年生	➡	➡	⚡	⚡	⚡
小学2→3年生	➡	➡	⚡	⚡	⚡
小学3→4年生	➡	➡	➡	⚡	⚡
小学4→5年生	➡	➡	➡	⚡	⚡
小学5→6年生	➡	➡	➡	➡	⚡
中学1→2年生	➡	➡	➡	➡	➡

- ・ 上昇傾向 = 4 教科、良好をキープ = 3 教科
- ・ 標準スコア以下で滞留 = 4 教科
- ・ 下降傾向 = 8 教科
- ・ 下降傾向にある教科が多く、各学年、各教科で毎年課題となる領域や観点については、分析をしたうえで、指導の工夫改善が必要である。

### 3. 成田市学力調査の結果を受けた

#### 学力向上への取り組み

基本目標 1-2-(3)

##### (1) 全国学力・学習状況調査と成田市学力調査の活用基準

本市が策定している成田市教育振興基本計画「輝くみらい NARITA 教育プラン」においては、成田市学力調査は、「児童生徒一人一人の学習内容の理解状況を客観的に把握し、具体的な学力向上策を検討していく資料」として扱うこととしている。

成田市として、「全国学力・学習状況調査」と「成田市学力調査」の基本的な活用基準は以下のとおりである。

市の学力調査の活用方法	= 学力向上の効果の確認、教職員の指導力改善及び、新年度教育課程編成の資料として活用する。
全国学力調査の活用方法	= 全国・県との相対的な位置を把握し、その平均との比較から成田市の学力向上の方策を図る。また、学習習慣の状況を児童生徒質問紙から実態把握を行う。

##### (2) 全国学力・学習状況調査よりも成田市学力調査を中心に活用する理由について

- ・経年で比較する際に、同一集団で比較ができる。(確実に集団ののびを把握することができるので、この部分を効果的に活用する。)
- ・学期末5年生と新年度6年生の結果を比較した場合、それほど大きな変化はない。このことから年度末に児童・生徒の実態を把握することができ、新年度の教育課程に効果的に活かすことができる。

##### (3) 成田市学力調査を活用した、学力向上の取り組みサイクル（参考例）

○調査実施～年度末

12月上旬	2月上旬	2月中～下旬		2月下旬以降
・成田市学力調査実施	・学力調査の結果返却（速報結果をもとにした次年度の学力向上策についての検討）	・研究主任を対象とした研修会を実施し、成田市学力調査の分析方法について研修する。	・学力向上対策シート作成 ・学力調査の結果を分析し、課題を明確にした上で次年度の方針を立てる。	・次年度の校内研修計画立案

○新年度～成田市学力調査実施までの期間

	4月	4月・5月	6月・7月・8月		10月	11月	12月
成田市学力調査	・成田市教育振興基本計画の確認及び、指導課の重点の周知	・学力調査の結果を引き継ぎ、学級・学年の現状を把握した上で学習指導にあたる。 ・自身の指導について振り返り、指導法の改善を図る。	・第1回学力向上推進委員会の開催（学力向上対策シートをもとにした学力向上の方針を立案。） ・結果をもとにした、校内研修の実施 ※ここで全国学力調査の結果も加味した研修会を各学校で実施する。 ※6月中 一般競争入札にて業者の決定（R3年度より）		・第2回学力向上推進委員会の開催。 （全国学力調査の結果をもとにした、学力向上策の考察） 全国学力調査の指導改善についての調査報告		・上旬に実施
全国学力調査	(全国学力・学習状況調査の実施)		全国学力調査の結果返却	全国学力調査を元にした分析			学校基本情報の確認

## 4. 学力向上を目指して ～本市の教育振興基本計画を知る～

(1) 成田市学校教育振興基本計画

成田市学校教育振興基本計画

# 輝くみらいNARITA 教育プラン

子どもの多様な個性 能力を伸ばし 未来をひらく力を育む



- 国際空港を擁する成田ならではの国際理解・英語教育の充実
- 成田の伝統・歴史文化を通じた教育の推進
- 地域との協働による開かれた学校づくりの推進
- 小中連携の推進

### 基本目標 1

#### 社会を生き抜く力を育む

1. 豊かな学びを支える学校・学習環境づくり
  - ・個性・才能を伸ばす特色ある学校づくり/地域に開かれた学校づくり
2. 学習指導の充実(基礎学力の習得・充実)
  - ・学習習慣の定着/少人数指導
3. 子どもの健康・体力づくりの推進
  - ・児童生徒の健康保持・推進/スポーツの振興
4. 幼児教育の充実
  - ・幼保小連携の促進/子育ての相談体制

### 基本目標 2

#### 伝統・文化の理解と国際性を育む

1. 郷土と伝統・文化についての教育の推進
  - ・地域の歴史、伝統・文化に対する意識高揚/郷土の伝統文化の継承・発展
2. 国際性を育む教育の推進
  - ・英語によるコミュニケーション能力の向上/国際理解教育の推進



### 基本目標 3

#### 豊かな心・道徳性・規範意識を育む

1. 心の教育・道徳教育の充実
  - ・人間関係の形成やマナー・ルールなど社会規範の指導の充実/豊かな人間関係づくりプログラムの実施
2. 感性を育む教育の充実
  - ・図書室機能の活用による調べ学習などの主体的な学習活動の展開/交流や体験活動の活発化による青少年の健全育成



### 基本目標 4

#### よりよい学校教育環境づくりを進める

1. 教職員の資質向上
  - ・教職員研修の充実
2. 教職員の負担軽減に向けた取組の推進
  - ・教育センターによる教職員の学習・生徒指導支援
3. 教育環境の整備・改善
  - ・中学校区ごとの小中連携の推進
4. 学校安全対策の推進
  - ・通学時の児童生徒の安全確保/防災機能の強化
5. 学校施設の整備・活用
  - ・計画的な整備・バリアフリー化の推進・地域施設としての活用

### 基本目標 5

#### 様々な困難を抱えた子どもたちへの支援を充実する

1. 学びのセーフティネットの構築
  - ・就学が困難な児童生徒・保護者への支援
2. 特別な支援を要する児童生徒に対する教育の充実
  - ・心身に障害がある児童生徒に対する適切な就学支援・インクルーシブ教育システムへの理解
3. いじめ・不登校などへの対応の充実
  - ・教育相談体制の充実、関係機関との連携強化

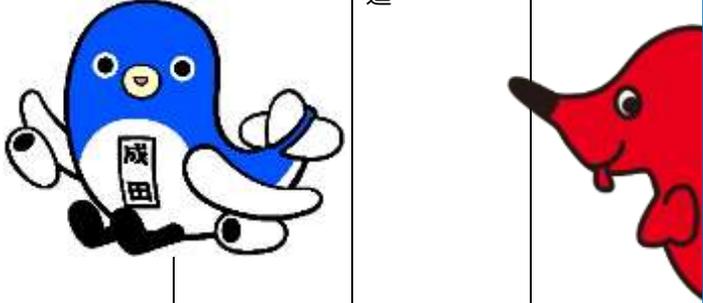
### 基本目標 6

#### 社会の変化に対応した教育を推進する

1. 情報教育の充実
  - ・ICT 機器を活用した効果的な教育の推進
2. キャリア教育の充実
  - ・児童生徒の発達段階に応じたキャリア教育の推進
3. 人権教育の推進
  - ・かけがえない自分や他者の心や命を尊重する教育の徹底/人権感覚の高揚
4. 学校・家庭・地域の連携による取組の推進
  - ・家庭教育力の向上/地域人材との協働による放課後・土曜日等の教育活動の推進

(2) 第3期千葉県教育振興基本計画と成田市教育振興基本計画との関わり

次世代へ光り輝く 教育立県ちばプラン 第3期千葉県教育振興基本計画

千葉県教育振興基本計画	<b>基本目標 1</b> ちばの教育の力で、志を持ち、未来を切り拓く、ちばの子供を育てる				<b>基本目標 2</b> ちばの教育の力で、『自信』と『安心』を育む学校をつくる			<b>基本目標 3</b> ちばの教育の力で、家庭と地域の絆を深め、全ての人が活躍できる環境を整える		<b>基本目標 4</b> ちばの教育の力で、世界を舞台に活躍する人材を育成し、『楽しい』『喜び』に満ちた豊かな社会を創る	
	<b>施策 1</b> 人生を主体的に切り拓くための学びの確立	<b>施策 2</b> 道徳性を高める心の教育の推進	<b>施策 3</b> 生涯をたくましく生きるための健康・体力づくりの推進	<b>施策 4</b> 共生社会の形成に向けた特別支援教育の推進	<b>施策 5</b> 人間形成の場としての活力ある学校づくり	<b>施策 6</b> 教育現場の重視と教員の質・教育力の向上	<b>施策 7</b> 多様なニーズに対応した教育の推進	<b>施策 8</b> 家庭教育への支援と家庭・地域との連携・協働の推進	<b>施策 9</b> 人生 100 年時代を見据えた生涯学習の推進	<b>施策 10</b> 郷土と国を愛する心と世界を舞台に活躍する能力の育成	<b>施策 11</b> 「するスポーツ」「みるスポーツ」「ささえるスポーツ」の推進
成田市教育振興基本計画	<b>基本目標 1-2</b> 学習指導の充実（基礎学力の習得・充実）	<b>基本目標 3-1</b> 心の教育・道徳教育の充実	<b>基本目標 1-3</b> 子どもの健康・体力づくりの推進	<b>基本目標 5-2</b> 特別な支援を要する児童生徒に対する教育の充実	<b>基本目標 1-1</b> 豊かな学びを支える学校・学習環境づくり	<b>基本目標 4-1</b> 教職員の資質向上	<b>基本目標 5-1</b> 学びのセーフティネットの構築	<b>基本目標 6-4</b> 学校・家庭・地域の連携による取組の推進	<b>基本目標 2-1</b> 郷土と伝統・文化についての教育の推進	<b>基本目標 2-2</b> 国際性を育む教育の推進	
	<b>基本目標 1-4</b> 幼児教育の充実	<b>基本目標 3-2</b> 感性を育む教育の充実			<b>基本目標 4-3</b> 教育環境の整備・改善	<b>基本目標 4-2</b> 教職員の負担軽減に向けた取組の推進					
	<b>基本目標 6-1</b> 情報教育の充実	<b>基本目標 5-3</b> いじめ・不登校などへの対応の充実		<b>基本目標 4-4</b> 学校安全対策の推進	<b>基本目標 4-5</b> 学校施設の整備・活用						

(3) 「成田市教育施策基本目標 1-2」と「教育指導課・学力向上への取り組み」との関わりー

成田市学校教育振興基本計画 -輝くみらい NARITA 教育プランより-

基本目標1 社会を生き抜く力を育む 2. 学習指導の充実(基礎学力の習得・充実)		基本目標3 豊かな心・道徳性・規範意識を育む 2. 感性を育む教育の充実		基本目標4 よりよい学校教育環境づくりを進める 1. 教職員の資質の向上		基本目標6 社会の変化に対応した教育を推進する 1. 情報教育の充実		
(1) 児童生徒の主体的な学びを支える取り組みの充実	(2) 指導内容、指導方法の工夫改善ときめ細やかな指導体制の整備	(3) 学力向上に向けた施策の検証・改善		(1) 読書活動の推進	(1) 教員研修への支援	(1) 校内のICTの備実		
・基礎的・基本的な知識・技能の確実な習得に向けて、児童生徒が主体的に学び、授業で行ったことの振り返り学習を自主的に行えるよう、学習習慣の定着に向けた取組を推進する。また、中学校区ごとに共通実践課題の有効な実践に向けて連携を図る。	・アクティブラーニングなど、児童生徒が自らの学習上の課題を正確に把握し、目標を立て、その達成に向けて努力するための効果的な学習方法や生活習慣を身につける取り組みを推進する。	・児童生徒の思考力、判断力、表現力等を育むため、児童生徒が「わかる」を実感できる授業づくりに向けた取組を推進する。	・児童生徒一人ひとりの学習内容の理解状況を客観的に把握し、具体的な学力向上策を検討していく資料として成田市学力調査を実施し、調査結果をもとに各学校での具体的な学力向上や教員の授業力向上を目指した取り組みを推進する。	・学習指導案や教材・資料など、児童生徒の学習指導に役立つ情報を教職員が共有化する仕組みを構築し、これを効果的に活用して学習指導を充実させる。	・学力向上に成果をあげている学校の学習規律や学習習慣の確立を図る実践事例を取材し各小中学校で共有できるようにリーフレットを作成・配布し、学力向上への取り組みを推進する。	・効果的な調べ学習や主体的な学習を支援することで、児童生徒の読書活動の振興を図る。	・児童生徒の生きる力を育み、質の高い学習を実現することができるよう、また今日的教育課題に対応するため、教育センター講座や教育相談講座の内容を充実するとともに、新規採用者の増加に伴って増加する悉皆研修対象者に対応するためのシステムの構築を図る。	・情報化技術の活用能力を育成し、情報通信技術を活用した効果的な教育を行うために、全小中義務教育学校へのタブレット端末の導入、LAN整備を行い、学校環境整備を推進するとともに、ICT活用に関するサポート体制の充実を図る。
学習環境の整備	学び方の習得	学習内容の明確化・授業改善	学習状況の実態把握・授業改善	学習環境の整備・実践の共有	実践の共有	学び方の習得・学習環境の整備	教職員研修の充実	GIGAスクール構想の実現

成田市教育委員会 教育指導課の重点

3. 学習指導の充実					4. 教職員の資質・能力の向上	2. GIGAスクール構想の実現
3-(1) 「知識及び技能」、「思考力・判断力・表現力等」を調和的に行うことができるよう指導内容の精選・重点化を図り、児童生徒が粘り強く学習に取り組む、且つ自ら学習調整が行えるよう効果的な指導計画及び評価計画を作成し、その実施に努める。	3-(2) 目標に準拠した評価を一層重視し、各教科等の見方・考え方を働かせ、主体的・対話的で深い学びの実現に向けた授業改善を推進するとともに、指導と評価の一体化に努める。	3-(3) 一人一台貸与されたタブレット端末をはじめとする様々なICT機器を効果的に活用したり、体験活動を積極的に取り入れたりするなどして、一人一人の児童生徒の個性や興味・関心を生かした授業づくりに努める。	3-(4) 基礎的・基本的な知識・技能の定着と望ましい学習習慣の確立を図るとともに、「成田市学力調査」及び「全国学力・学習状況調査」の結果を活用して、学力状況を把握・分析し、学力向上に努める。	3-(5) 学校図書館の整備を進め、計画的な活用を通して、児童生徒の読書活動を推進するとともに、調べ学習などの主体的な学習の支援に努める。	4-(1)～(4) ・教職員自らの課題解決に向けた主体的な研修・調査研究の支援に努める。 ・若年層、講師を対象とした相互実践研修を行い指導力の向上に努める。 ・GIGAスクール担当指導主事及びICT支援員を各学校に派遣し、タブレット端末を効果的に活用した授業スキルの向上を図る。	2(1)～(2) ・児童生徒一人一人にiPadを貸与し学校の高速度ネットワーク環境を構築することで、多様な子供たちを誰一人取り残すことのない、校正に個別最適化された学びを実現できるように努める。 ・タブレット端末の効果的な活用を通して、豊かな創造性を備えるとともに、持続可能な社会の創り手として予測可能な未来社会を自律的に生き、社会の形成に参画するための資質・能力を一層確実に育成できるように努める。

## 5. 学力向上に向けた市内共通実践課題

NARITA 教育プラン

### (1) 成田市教育委員会 教育指導課「学校教育の方針と重点」の周知

- ・簡略化したものをリーフレットにまとめ、成田市教職員全体での周知を図る。(週案等に綴じ込む) ※毎年年度始めに配布予定。



### (2) GIGA スクール構想に伴うタブレット端末の有効活用

NARITA 教育プラン 基本目標 6-1

指導課の重点 2

共通実践項目⑥

- ・タブレット端末を効果的に授業に取り入れることで、個別最適化された環境での学力向上を図る。

<p>令和 6 年度における ICT 教育</p> <p>○タブレット端末を効果的に活用した授業の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・成田市 ICT 教育推進委員会による中・長期的視点による検討の実施</li> <li>・指導主事、ICT 支援員による定期的な支援</li> <li>・端末活用重点校による実践共有及び授業展開等</li> </ul> <p>○ICT を活用した家庭学習の実施</p> <ul style="list-style-type: none"> <li>・デジタルドリルを活用した個別最適化された学習の実施</li> </ul>
--

### (3) 小中連携の視点より、中学校区ごとに共通実践課題の設定と学習規律の徹底

NARITA 教育プラン 基本目標 1-2-(1)

指導課の重点 3-(1)

- ・学習規律に関する共通実践項目

・姿	勢	…「ピンピタグー」
・返	事	…「はっきり、元気よく」
・持	ち 物	…「筆箱の中身、持ち物の記名、机上の整理等」
・発 表	の 仕 方	…「学校内における発表の仕方の共通理解」
・聞	き 方	…「視線・発言に対する反応」

#### (4) 学力向上における共通実践の設定

NARITA 教育プラン 基本目標 4-1-(1)

指導課の重点 3-(1)～(5)

・本市の学力向上における共通実践6項目

- ①学習課題の明確化及び、児童・生徒主体の対話的な学びを促すため、授業改善の実践項目を設定（ダブルアップシート）
- ②学力調査を活用した授業改善
  - ・同一集団の経年変化を活用したPDCAサイクルによる授業改善
- ③優れた指導実践等の共有化
  - ・市内共有サーバーを活用した指導案等の共有化
- ④家庭での学習習慣の確立
  - ・「ちばっ子チャレンジ100」「ちばのやる気ガイド」「家庭学習のすすめ」等を活用した家庭学習の奨励
- ⑤学校図書館の計画的な運用と読書活動の推進
  - ・学校図書館司書との連携を通じた蔵書の活用と、読書機会の設定
- ⑥日々の授業におけるタブレット端末の効果的な活用の推進
  - ・新たな協働学習のためのツールとして使用
  - ・デジタルドリルによる個別最適化学習の実施

#### (5) 相互実践研修の実施（指導主事←→2・3年目、講師）

NARITA 教育プラン 基本目標 4-1-(1)

指導課の重点 3-(1)～(5)

- ・採用2・3年目の教員を対象とした相互実践研修を実施し、授業を参観した後に研究協議や助言を行う。
- ・学校からの要請で、講師を含む市内全教員を対象とした指導主事等による授業参観を行い、幅広い層に対して、授業改善の指導を助言する。
- ・若年層教員（経験年数3年以下）の希望者を対象に、教材研究の段階から指導主事と協働で授業を計画・実施し、その後の研究協議等をおし、実践的指導力、使命感及び学級経営の向上を図る。

※指導主事等による授業参観の申し込みは随時受付をしています。

年度途中でも成田市教育委員会教育指導課までご連絡ください。



(0476-20-1582)

(6) 学習課題の明確化及び、児童・生徒主体の対話的な学びを促すため、授業改善の実践項目を設定（ダブルアップシートの活用）

NARITA 教育プラン 基本目標 1-2- (1)

指導課の重点 3- (1)

共通実践項目①

- 千葉県教育委員会の『「思考し、表現する力」を高める実践プログラム』における、主体的・対話的で深い学びを実現するための視点と市教委が作成している若年層教員に向けた基礎的・基本的な授業を行うための視点を合わせたダブルアップシートに、主体的に学習に取り組む態度を高める視点を加え、先生方の日々の授業実践での活用の他、若年層研修や校内研修等で活用

「思考し、表現する力」(千葉県) & 授業力(成田市) ダブルアップシート		記入者( )		
日時	令和 年 月 日	授業者名		
学年・組	年 組	教科		
単元名	本時のねらい(目標)			
チェック項目			重点	評価
授業前	本時(本単元等)を通して、資質・能力が育成された児童生徒の具体的な姿を、観点別の目標に基づいて描いている。			
	本時(本単元等)で資質・能力の育成がでたが評価する手立てを準備している。			
	本時で働かせるべき「見方・考え方」を理解している。			
	「見方・考え方」を働かせた児童生徒の思考の過程が表れるような板書を計画している。			
見いだす	めあてがもてるようにする。	児童生徒が自ら疑問をもつことができるような資料や疑問を準備し、意図的に活動できるように指導している。		
	学びあわせるようにする。	既習の内容や方法を振り返る場面を設定している。		
	自分の言葉で書けるようにする。	児童生徒が課題を明確にすることができるように、疑問を整理して黒点化している。		
	自分の言葉で書けるようにする。	本時(本単元等)の目標(めあて・ねらい)を児童生徒の言葉を使って板書している。		
自分で取り組む	見通しをもつて課題に取り組めるようにする。	児童生徒が解決の見通しをもつことができるように、学習のめあてや既習の内容との相違点等を児童生徒とともに確認している。		
	学びあわせるようにする。	自ら情報を収集し調べるができるように、手順を示したり、具体物等を用意したり、児童同士や教師・外部人材などと対話する場面を設定したりするなど、学習に適した環境等を用意している。		
	粘り強く取り組めるようにする。	児童生徒が自分の考えを形成したり、思いや考えを基に創造したりする時間を確保している。		
	粘り強く取り組めるようにする。	児童生徒が「見方・考え方」を働かせながら課題に取り組むことができるように、取り組みの進め方や進め方を指導している。		
広げ深める	協働を通して思考を広げられるようにする。	児童生徒一人一人の様子を把握しノートやワークシートの記入について適切に指導したり、早めに解決でた児童生徒や、つまづいている児童生徒に次なる手立て(適切な援助)を準備している。		
	自分の言葉で書けるようにする。	児童生徒が自分の考えを伝える場面を設定している。		
	自ら学習を調整できるようにする。	児童生徒が「見方・考え方」を働かせながら根拠とともに自分の考えを伝えることができるように、伝えるときに整理すべきことを指導している。		
	自分の言葉で書けるようにする。	児童生徒が多様な考えを理解できるように、互いに学び合う場面を設定している。		
まとめめける	「わかった」「できた」という実感をもてるようにする。	児童生徒が友達や考えを聞き、疑問点を問い直すことができるように、自分の考えと比べあがらなくなど、関係性の指導をしている。		
	自分の言葉で書けるようにする。	児童生徒が新たな考えに気付くことができるが確認し、自分の考えや学びを修正することができるように、意図した助言をしている。		
	学習事項を定着できるようにする。	児童生徒が板書やノート、作業等を通して思考の過程を振り返り、学んだことをまとめる場面を設定している。		
	今後の見通しをもてるようにする。	「深い学び」につながる本時(本単元等)のまとめを、児童生徒の言葉で予想し、準備している。		
	学習事項を定着できるようにする。	児童生徒が学んだことを授業に身に付けるために、練習問題等に取り組んだり、「見方・考え方」を今後の学習や生活にどのように生かすか考えたりする場面を設定している。		
	今後の見通しをもてるようにする。	児童生徒が新たな疑問をもつことができるような疑問を準備している。		

(7) 指導と評価の一体化 (PDCA サイクルの実施)

NARITA 教育プラン 基本目標 1-2-(3)  
 指導課の重点 3-(4)  
 共通実践項目②

- ・本成田市学力調査の結果を活かした PDCA サイクルによる授業改善及び、指導実践の振り返り。(成田市学力調査を活用し、同一集団の「昨年度からの伸び」を重視した児童・生徒の変容をもとに、客観的な分析を行い指導改善に役立てる。)

	国語	算数	理科	社会	学力向上のための取組		
					知識・技能の向上	思考・判断・表現の向上	主体的に学習に取り組む態度の向上 その他 ○授業改善のための校内体制 ○地域人材の活用 ○家庭への協力等
1年生スコア	52	52.9					
同一集団の昨年度スコア							
比較							
2年生スコア	49.6	51					
同一集団の昨年度スコア	52	53.3					
比較	-2.4	-2.3					
3年生スコア	49.9	48	50.6				
同一集団の昨年度スコア	49.2	49.8					
比較	0.7	-1.8					
4年生スコア	49.6	51.3	51.6				
同一集団の昨年度スコア	51.6	52.2					
比較	-2	-0.9					
5年生スコア	50	51.6	50.9	47.9			
同一集団の昨年度スコア	51	53	51.9				
比較	-1	-1.4	-1				
6年生スコア	50	49.7	51.5	49.1			
同一集団の昨年度スコア	49.1	50.9	52				
比較	0.9	-1.2	-0.5				
学校平均	50.2	50.8	51.2	48.5			

※スコアは、全国平均を50としたときの換算値であり、50以上であれば相対的に良好であるといえる。

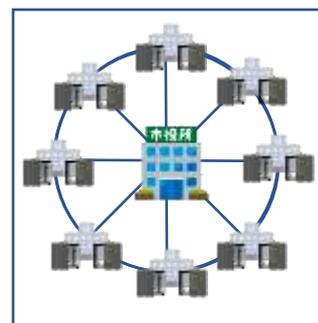
(8) 優れた指導実践等の共有化

NARITA 教育プラン 基本目標 1-2-(3)  
 指導課の重点 3-(4)  
 共通実践項目③

- ・校内研修会・授業錬磨の公開日に向けて作成した指導案やワークシート等を、市内共有サーバーを活用し優れた実践・学習指導教材等を共有することで、指導力の向上を目指す。
- ・「成田市学力調査」の結果から学力状況を把握・分析し、リーフレットづくりや教育センターだよりを通して、優れた実践を共有し、学力向上に努める。



教育センターだより



市内共通サーバーによる共有

(9) 家庭での学習習慣の確立

NARITA 教育プラン 基本目標 1-2-(1)

指導課の重点 3-(1)

共通実践項目④

- ・タブレット端末を活用したデジタルドリルの活用
- ・家庭学習の習慣化 (ちばっこチャレンジ100、学びガイドの積極的活用)



(10) 学校図書の計画的な運用と、読書活動の推進

NARITA 教育プラン 基本目標 3-2-(1)

指導課の重点 3-(5)

共通実践項目⑤

- ・教育課程内における読書タイムの設定 (令和5年度 成田市内96.6%達成)
- ・児童生徒一人あたりの年間図書貸し出し冊数

	令和5年度目標値	令和5年度実績値	達成率
小学校	70冊	69冊	98.5%
中学校	25冊	17冊	68.0%



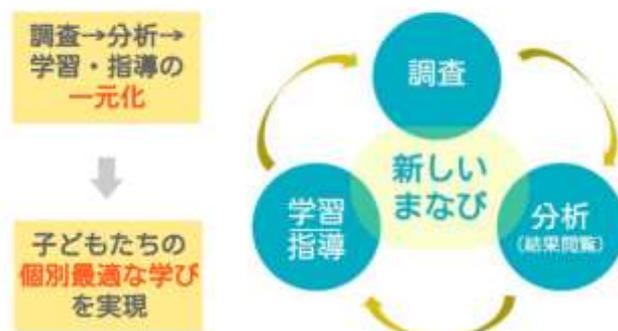
(11) 東京書籍マイアセスを活用した確実なフォロー

NARITA 教育プラン 基本目標 1-2-(2)

指導課の重点 3-(4)

- ・マイアセス上で学力調査の結果を閲覧することが可能となり、児童生徒一人一人の結果に基づいた、個別最適化された学習に取り組み、課題を克服できるようにする。

マイアセスのコンセプト



※資料【成田市における学力・学習調査事業の変遷】

	全国学力・学習状況調査	成田市	調査の目的とその背景
H19～	悉皆	なし	・千葉県標準学力テストを実施
H22	抽出	田研出版	・全国調査が抽出となったため、全小中学生の学力や学習状況を把握し、指導改善に生かす等の目的で、市独自で実施する。
H23	中止	総進図書	・児童生徒の学力の経年変化を追い、より精緻に学力傾向を分析するなどの目的で、3年間、同一問題を出題し続ける。
H24	抽出		
H25	悉皆		
H26	悉皆	東京書籍	・当該学年（小1～中2）の1～2学期の学習内容を出題範囲として、複数年に渡り、新作の問題を出題する。そのため、問題等を学校で活用することができるようになった。
H27	悉皆 理科実施	東京書籍	
H28	悉皆		
H29	理科未実施		
H30	悉皆 理科実施		
H31 (R1)	悉皆 中・英語実施 理科未実施		
R2	中止	東京書籍	・緊急事態宣言により、2か月の臨時休業期間があったため、実施教科をしばらく、小学校は国語・算数、中学校は国語・数学・英語で実施。 ・実施日も1週間ずらし、1月20、21日に実施。 ・社会、理科が実施代わりに質問紙調査を行った。
R3	悉皆 中・英語実施 ※例年より1か月ずらし、5月27日実施。	東京書籍	・当該学年（小1～中2）の11月末までの学習内容を出題
R4	悉皆 理科実施	東京書籍	・当該学年（小1～中2）の11月末までの学習内容を出題
R5	悉皆 中・英語実施 (話すこと調査オンライン実施)	東京書籍	・これまで1月中旬に実施していたところ、12月上旬での実施に時期を変更（各校での分析やフィードバックの時間を確保するため） ・当該学年（小1～中2）の11月末までの学習内容を出題
R6	悉皆	東京書籍	・当該学年（小1～中2）の11月末までの学習内容を出題

